

ランス大帝記

nao_japan_fourth

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

居るか判りませんが始めまして読者の皆様

鬼畜王ランスベースの二次小説になりますがランス・クエストやマグナム、戦国ランス等知り得る限りのキャラや地名、迷宮、国等が登場します

18禁ゲームのランスシリーズ二次小説ですがエロシオンは有りません（多分）

主人公は皆が大好きなランス君ですメインヒロインは魔想志津香、サブヒロインとして謎の娘（笑）

人間関係や登場人物達の性格等も変わりますのでそう言う事が嫌な人ブラウザバックお願いします

後悔先に立たず

エロシオン無しでランスシリーズ二次小説を書くのがこんなに面倒だとは思いませんでした

チヨコつとずつ修正などしています

目次

プロローグ	1
第一部第一章カスタム	13
第一部第二章JAPAN	24
第一部第三章 リーザス	37
物語開始時（LP3年）の年齢（改定）	50
第二部第一章ゼス崩壊の序曲	52
第二部第二章ゼス崩壊の序曲2	69

プロローグ

そこは人間達や魔物達誰一人近寄らない地下深く闇に包まれた洞窟である

はるか上の地上では人々の争いや営み等で騒がしいがここは静寂に支配され静かだ

そこに居たのは最悪・最狂の魔王ジルにより魔人となったノス・レイ・メデイウサ三体の魔人

ノス「準備はできたなお前達」

レイ「ああ」

メデイウサ「出来たけどこんな物で本当にジル様を復活させられるのかい」

そこには不気味で怪しげなものばかりが集められていた

人間の骨、多くの血を吸って錆びついた剣や刀、血塗られた衣服や書物等だ

そしてそれらとは全く逆のオーラを放つ宝玉が1個有るだけ

勇者クエタブノの骨と勇者アキラの血塗られた衣服、

無名の勇者達が持っていた錆びついた剣や刀

第三代魔王スラルが秘匿していた血塗られた書物

唯一光り輝く宝玉は古代神殿の地下深くで眠っていた神の落し物

ノス「魔王スラルが神と謁見した時に教えられた魔王復活の儀式に必要なものだ」

レイ「でもよお、ジル様が復活したら魔王が二人になっちまわないか」

メデイウサ「そうそれだけが気になってたのよね」

ノス「心配するなこの書によると魔王と復活した魔王の二人が並び立つ時、力は先代魔王に行く

つまりだ現魔王のガイより先代魔王のジル様が魔王としての力を全て吸収するらしい」

メデイウサ「それじゃあガイはどうなるの？」

ノス「ただの抜け殻か良くて人間に成るだけだな」

メデイウサ「そうするとガイの娘のホーネットを可愛がれるなア・イ・ツちよつとばかし可愛い

からつてお高く留まりやがつて」

レイ「好きすればいい良いじゃないのか」

ノス「始めるぞ準備はいいか」

レイ「おう」

メデイウサ「ハイナ」

そして始まった儀式だが魔王スラルが残した書物は一部逆順に行なわなければなかった

ジルを復活させるには勇者アキラの衣服（ジルの血が着いてる）を最後にしなければ成らない

だが普通に読むとスラルの血が着いた書物を最後に使うことに成ってしまう

通常の間覚で行けば重要な儀式を書き記した書物を最後にするのが当然なのでノスは疑いもせず

書物を最後にしようした

（スラルの残した書物には正確な手順が書き記されているがノス等には読めない部分がある）

その時この儀式を見ていた者が2名？居た

神界

人類管理局の女神ALICEと魂管理局の女神クエルプランである

ALICE

「あらまた馬鹿なことやってるわね」

クエルプラン

「魂を勝手に復活させるなんて出来るはず無い」

ALICE

「良いじゃない人間達や魔物達は混乱するし、あの宝玉ってG・O・Dが悪戯で置いた物でしょう」

クエルプラン

「汚染したりする魂が増えると管理するのが面倒」

A L I C E

「私達が力を貸さなければ復活なんて出来ないしね、そうだ復活させる魂が持つ能力を強化付与

するのはどうかな？どつちにしろ現魔王ガイは本来の力には目覚めていないし復活した魂が喩え

本物の元魔王でも力が行く事は絶対に無いから」

クエルプラン

「復活する魂の持ち主はメインプレイヤー（人間）にすると管理がしやすい」

A L I C E

「うーん、良い事に気がついた3000年くらい前の魂で輪廻出来ないで残ったままの魂が有った

わねアレを使かうわよ、アレ汚染されてなかったし死ねば輪廻も出来るしね」

クエルプラン

「あの魂はバグに等しいと記憶してますが」

A L I C E

「大丈夫よ、ついだから人間の雌にして雄達が奪い合うほどの存在にしちやいましょうそれで

決まりね」

クエルプラン

「我儘A L I C E」とクエルプランはボソツと呟いた

A L I C E

「何か言った？」

クエルプラン

「何も」

神界でその様な悪巧みが進んでるとは知らないノス達魔人三体は手順を確認しながら最後の段階に

まできていた

ノス「いよいよ最後だぞ」

レイ「だな」

メデイウサ「ワクワクするわあ」

そしてスラルの書物が宝玉にかざされた時、組まれた魔法陣が眩しい光に包まれた

一瞬か永遠か解らぬ時間が過ぎ光が治まった時魔法陣の中に裸体で立って居た、人間の女の様だが

何が起きてるのか解らない様子で周囲を見渡していたがやがて女は倒れた

ノス「やったジル様が復活した・・・ぞ?」

レイ「・・・え」

メデイウサ「つてアレダレ、ジル様じゃないわよ」

輝く金髪は長髪で腰の高さまで届く、眼は碧眼、耳は少し尖り気味だが違和感を感じる程では無く

170cm位の長身なのでスレンダーに見えるがその双丘はバランスの取れてる大きさその形も良く

腰は高くて手足も身長に合った長さ、お尻は大きめだが引き締まりスタイル抜群

顔の造形も中性的だが誰もが認める程の美女と言って良く

彼等を魔人にした魔王ジルとは明らかに違う存在で、もしSS期に生きてた

魔人ケツセルリンクやガルティア等がこの場に居れば直ぐに気づいた筈だ

プライドの高い魔人カーミラが嫉妬したほどの美しさと才能を持つ魔王スラルに瓜二つだと

魔王スラルの残した書物は本物だがノス達が集めたアイテムでは不可能な上彼等では書物の情報を

正確に読む解く事が出来無い、もしできるとしたら神や魔王そしてホ・ラガしかいない。

女が復活できたのは女神ALLICE神の悪戯の結果であり神の手助けが無ければ誰であろうと復活など

出来る筈も無いそれはこの世界の因果律に触れる事に成るからだ。

もし復活できたとしても書物通りならば此処にある有るアイテムならば魔王ジルより魔王スラルが

優先されるのは当然であり、更に言うなら魔王ジルは死んでおらず異世界に飛ばされただけでまだ

生きてるのだからこの死からの復活儀式において魔王ジルの復活はありえないのだ

女は意識を失ったままだが内包されてる力が少しづつ漏れ始めていた

ノス「失敗か、なら仕方ないメデイウサあれ好きにしても良いぞ」
メデイウサ「ハイハイ」

メデイウサが女に近寄りその触手で女を絡め取ろうとした瞬間再び女を光りが包み収まった跡には

儀式用の魔法陣が破壊されて残骸のみが残されてただけで女は跡形もなく消え去っていた

メデイウサ「何なのよいったいキーン」
そして何処か神聖な雰囲気を持つ洞窟内で突如眩い光と共に現れたのは先ほどの女である、意識を

取り戻した女は「ここは何処？私はダレ？」と声を発するが答える者は誰も無くやがて女は運命の

男が現れるまで長く深き眠りに着く事になる

一方神界でも想定外の出来事だったのか

A L I C E 「なんであの娘が生き返ってるのよ」

クエルプラン「あの個体何故か惹きつけられる、まるで自分を見るような気がする」

システム神「あら、バグなの？またバグなのねA L I C E いい加減にしなさい」

A L I C E 「いや想定外だから(´・`・´)」
クエルプラン「だから言ったのに」

システム神「(´・`・´)」

光の神G・O・D「(´・`・´)」
プランナー「(´・`・´)」

と、神々特に復活した娘と縁のあるプランナーは困惑していた

創造神「面白いなあアレ」

創造神は神々の混乱を面白いと思いいその原因と成った女をプランナーを通して聖女モンスター達に

保護させる事にしたのだが創造神の思惑もあるが自身も生き返った女には負い目があり消滅させる

分けにも行かず生き返らせた張本人女神ALICEの施した能力付与や強化を認める

女の過去を考えて魔人側と判断したプランナーがバランスを取った結果人間界でバグを持つ男が

生まれ、魔人の使徒を体内に取り込んでいた少女がある出来事での使徒から開放されたりと

色々と女神ALICEにとり想定外な事ばかり起きてしまう。

プランナーは己の意図として行動していたが創造神自体が介入してた事には気付かずいた

復活した謎の女性が深い眠りについてから数百年後、英雄としての資質を持ちながら己の欲望のみ

に生きている男がいたその名をランスと言う、この破天荒な男の存在が神々の思惑を尽く破り最後

にはこの世界のシステムを変える事になるのだが少なくとも家族ともいえる女を失うその日までは

当の本人は己の欲望（H）の為にだけ生きていた
ランス己のミスでシイルを失う

キースギルドの依頼でヘルマンの盗賊退治に出かけたランスはシイルを連れログBとマウネスの

中間よりヘルマン側にある盗賊達の拠点近くに居た
「盗賊達の人数が多いのは面倒くさいがキースの言う通りならお宝も

結構有りそうだし盗賊共

はヘルマンやリーザスの可愛い子ちゃんを誘拐してるらしいから
助けてやればお礼にHさせて

くれる筈だ」

「ランスさまあ怖いから辞めませんか」

「お前はバカか俺様がこんな所にいるチンケな盗賊達に負けると思ってるのか」

「でも怖いですう」

全くこの奴隷は俺様の強さを知ってる筈なのにとランスはゲンコツでシイルを小突く

「ランス様痛いですう」

今回ランスが盗賊退治などと言う珍しい依頼を引き受けたのには理由がある

数々の冒険で稼いだお金を無計画に使った結果生活資金不足に成った為で今回の依頼には盗賊達が

溜め込んでであろうお宝を自由にして良いとの条件が付いてた更には囚われた女の子達の中に裕福な

家庭の子女もいるらしくその御礼も別料金で貰えるらしい

勿論ランスが引き受けるという事は女の子達に手出しする事はキースにも判ってたのだ

キース曰く

「親達も娘が傷物に成ってる事くらい覚悟してるだろうからお互い合意の上ならかまわんぞ」

ランスにお互いの合意の上なんて言うのは免罪符を与えたようなものである

最もキースが盗賊達よりやばい男ランスに依頼したのはある情報を得ていたからだ

ランスに教えなかったが盗賊には元ヘルマン兵の猛者も居てその背後にはヘルマンの実力者がいて

並の冒険者では太刀打ち出来ない可能性がありその点ランスなら何とかしてしまう強さが有る。

確かにランスと云う男は女の子に目がなくおそらく何人かの女の子はランスに手出しされるだろう

しかし不思議な事だが手出しされた女の子達がランスを訴える事

は少なくとも済んでるのだ。

依頼を受けた時該当する冒険者は唯一人のみとした上でその冒険者は極端な女好きで助け出しても

その冒険者の毒牙に掛かる可能性が高いとも伝えている。

最初は困惑した依頼主だったが元々誘拐された時点で娘の貞操は諦めてた節が有り家の名誉の為に

死んでくれた方が良いと考えてたらしいのだが娘には婚約者が居てどうしても嫁がせなければ成ら

ない事情が有るらしい。

要は娘の貞操より政略結婚を優先したのだろう依頼主は少々了解したのだが本当は誘拐された娘は

依頼主の実子では無く最下層の人間から買い取った子で依頼主の実子に代わり政略結婚をする事が

決まっていると話した。

「ガハハハ」

シイルの不安をよそにランスは盗賊のアジトに乗り込み抵抗する盗賊達を斬り伏て奥深くに突撃したのだが

「・・・？」

確かにお宝はあった、有ったのだが囚われている筈の娘達が居ないのである

「・・・！」

だがランスは何かを感じ取り来た通路を戻って行く

「ランス様？」

シイルを置き去りにして洞窟を出たランスは何かに導かれ珍しく山肌が露出してない森林部に入る

と、そこには大きく急流な川と小屋が有り入ろうとするランスに刃物が襲いかかるが人間の姿は

無くまるで刃物が意思を持って襲って来るみたいだ

「ステルススーツか・・・厄介な」

ステルススーツとは透明化するモンスターを元に秘密に作らたらしいのだが噂だけで実物には

お目に掛かった事が無くランスと言えど初めてなので戦い方に戸惑うが、しかし

「覚悟」

と言う女の声が出た途端ランスの美女センサー？が反応したのか剣を或らぬ方向へ振るうと

「きゃあ」

との叫び声と同時に女が姿を表し持っていた剣はその手から飛ばされていた、

どうやら剣を振るった先に女がいてステルススーツを微かに切り裂いたらしくステルススーツが

透明力を失いその姿は裸体で顔も顕になる

その顔から判断するとどう見ても14歳以下だがランスには肉体的に16歳くらいに見えたらしい

「・・・99点」

「え？」

「俺はロリコンじゃない、ロリコンじゃないが可愛子ちゃんだし体も食べ頃だし貰った」

「え、え」

戸惑ってる女の子をランスは抑え込んでしまいが今がどういう状況なのかを失念していた

「ルシアン様を離せ」

そう叫ぶ男達が次々と姿を表すランスに襲いかかるがそんな男達を鬱陶しいと女を抑え込んだまま

剣を振る

それはまるで神業で襲いかかった男達を斬り伏せ河に落としてゆき10人以上の男達を倒すと襲撃は

無くなりルシアンと呼ばれた女の子とランスだけに成る

助け出す予定の娘では無かったが99点と高評価した女の子である当然ランスはルシアンを美味しく

頂く事にした

ランスが顔で判断した通りルシアンはこの時13歳で当然処女

だった

激しく抵抗するルシアンだがランスに敵う筈もなく犯されてしま
う、しかし肉体的にも女としての

成長を始めていたのか途中から肉体がルシアンの意思とは関係な
くランスの動きに合わせて来る

やがて皇帝液をルシアンの中に放った至福の瞬間何者かが近づい
たので無造作に剣を振ってしまふ

「きやああ、ランス様何故」

慌てて振り返ったランスが見たのは胸元を切り裂かれ血飛沫を上
げながら河に落ちて行くシイル

「シイールー」

あまりの事に我を忘れて叫ぶランス

ランスは慌てて河に近づくがシイルが落ちた所は急流の上川底が
深く助かる事はまず無い

「シイル・・・俺は何をしたんだ」

その空気にルシアンはHの痛さと余韻から来る気だるさを抱えた
己の身体を叱咤し逃げ出していた

ランスから逃れた彼女の下に集まって来た者達のリーダーがどう
しますかと尋ねるが

ルシアンは首を横に振った

「あの強さなら私の護衛に取り立てても良いでしょうけどあの様子で
は今は駄目でしょうね」

すると侍女らしき女の子が

「ですがあの男はシ・・・ルシアン様を犯しました罰を与えなければい
けません」

「ペルエレ、あの男は既に罰を受けたようですよ今は放って起きま
しょう」

ペルエレと呼ばれた侍女は己を暴力で犯した男を許すなんて主人
ルシアンの甘さを内心嘲笑ってた

為にルシアンの眩きを聞き逃してしまふ

その眩きとは

「初めは痛かったけど気持ち良かったこれがセックスと言うものですか」

ルシアンはペルエレが自分に忠実な振りをしてるだけだと知っていたし実家の権力を掌握している

あの男の犬だという事にも気づいてた

「あの様子なら倒すことも出来るかと思いますがよいですか皆さん今は手出し無用ですよ、何時か

また会える気がします、その時は部下に出来たらいいですね」

ルシアンと名乗る女の子は盗賊の一員としては似つかわしくない上品な仕草と言葉使いからすると

おそらく上流社会に所属する人間だろう、幼い彼女は陰謀蠢く上流社会で生き残る為に信頼できる

部下が欲しかった、手足と成り支えてくれる人材を欲していたのだ。

私自身が謀略に身を委ねたのはいつの頃からだろうか自分の子で無いと知っても私に優しい義父へ

あの男の毒牙が及ぼうとしている事に気づいた時か、母はあの男に父親は貴方よと嘘まで付いて私を

守ろうと必死だが自分の子とされている筈の私をあの男は欲情の目で見てるの感じた事がある

幸い今日まで切り抜けていたがペルエレはあの男に報告する筈だから今後はどうなるか分からない

私はあの男の犬を承知で侍女として受入れ馬鹿な女の子を演じてきたけれどペルエレの報告により

何人もの腹心が殺されていたから報復の意味もありそのペルエレを合理的に排除しようとした結果

今回は失敗した、数少ない腹心達を使い盗賊団を乗っ取らせ我が国と関係が無く実力のある人物を

見い出す為に計画したのが今回の盗賊騒ぎ、ギルドへの依頼主も私の信頼してる少ない家宰の1人

計画を考えたのも私だ冒険者と戦った者達は幸いにして死者は出

ていない

ただ子供を産める女に成ったばかりの幼い私が無理やりHな行為をされるとは想定外だったけれど

処女を奪われる痛さと行為の途中から気持ち良かったのも事実で私は自身が思っていたより大人の

女性に近づいていたのだと思う。

今此処で処女を奪われた事は返って良かったとすら思っている、何故なら今のまま成長したとしても

自由な恋愛は出来る筈も無くあの男の思惑次第で好きでもない男と結婚する未来しか描け無い

(ペルエレの報告を聞いたその男はルシアンが処女では無くなった事を知りルシアンを汚された

女として見向きもなくなったそうだ)

ルシアンは再びランスと会う事に成るがその時には顔や声も忘れるほど激動の時を過ごしていた

己の馬鹿げたミスでシイルを失いあてもなく彷徨って約一ヶ月、アイスの自宅に戻る気も起きず

ランスはカスタムの街に来ていた

そして運命の女であり唯一無二の存在となる魔想志津香と再会する

第一部第一章カスタム

カスタム

自由都市地帯中心部の南側にある独立都市で大陸随一技術が発展した都市国家

自由都市地帯にある都市の中では人口が多い方である

カスタムと言えばカスタム四魔女が有名であるがその実像は他都市へ正確に伝わってない

魔想志津香、エレノア・ラン、マリア・カスタード、ミル・ヨークスの4名の事だが

カスタム四魔女と言えば魔法大国ゼスのゼス四天王に匹敵する魔法力の持ち主達で

空飛ぶドラゴンを操り大人にも子供にも化ける事が出来きその後には大陸最強の魔法使いと

戦士達が居ると言われる謎の存在である

ドラゴン云々はおそらくマリア・カスタードのチューリップシリーズの事が誇張されて伝わり

子供にも化ける等はミル・ヨークスの事が誤解されて伝わったのだゼス四天王に匹敵する等はカスタム四魔女の実像を知らない他都市の憶測で生み出された噂で

魔法力でゼス四天王を凌駕できるのは魔想志津香だけである

最強の魔法使いと戦士達と言うのも魔法戦士であるランの事が歪曲されて伝わったのだろう

ランはその優しい性格から攻撃的になれないが実際大陸有数の魔法戦士でもある

カスタム市民は彼女達が四魔女になる過程に負い目を持つ事も有り大切にされ

まだ完全に少女の域を脱してない(ランも?)彼女達を護る為に他都市へ実像を隠していた

ミスでシイルを失ったランスはあても無く彷徨ったあげくカスタ

ムをふらついでいて

全くの偶然であるがエレノア・ランの自宅前でランと再会する

何時もの覇気に満ちてたランスがまるで別人の如く覇気が感じられず落ち込んでる

シイルが側に居ない理由も判らずランスを励まそうとし自宅に招き入れた

この辺りがランの優しさだろうがランスを知ってる筈のランだが無用心だったとしか思えない

ランスは処女を強引に奪いランにとって初めての男で嫌い嫌だと否定しても成熟し始めた

女の身体と心がランスに男を求めたのか結局雰囲気にかけてHする事になってしまう

ランスに抱かれる事に苦痛を感じていた筈なのに拒否しなかったいや拒否できなかつた

何時もの強引さは無く優しくまるで大切にランを慈しむような行為

ランは行為の最中快樂の頂点に達して意識を失い黄色いトリが何かを告げる不思議な夢を見た

意識が戻ったランはランスに運命を感じ口づけをする

「すまなかつた」

行為の後ランスが謝った事で初めて只事でないとランは思う

「どうしたの？」

ランが尋ねるとランスは「今は聞かないでくれ」と答えたのみで沈黙した

ランスはやがてランの家を出て行くがそんなランスを放つても置けず入れ違いで訪れた

マリアにランは相談する

勿論ランスを好きな事がまる分かりのマリアにランスと直前までHしてた事は内緒である

そしてマリアはランスを追いかけ近寄り質問を繰り返すがその行動が裏目に出たのか

マリアに同情されたと思いい立ち去ってしまう

この時マリアは何時もランスの側に居るシイルが居ない事に気づかないで居た

カスタムの街をふらついて居るランスの前を何者かに追われてる志津香が通り過ぎて行く

志津香は街のアイテム屋を覗いてたのだがその容姿に目をつけた冒険者くずれが絡み

街中で魔法をぶつ放して撃退するにも行かず志津香は逃げ出した
だが男は執拗に彼女を追いかけてくる、志津香の容姿は誰が見ても美少女と言うだろう

女を知る男が見れば魔女服に包まれたその肢体の良さは判り極上それが魔想志津香という少女

志津香が追い詰められ魔法を放とうとした時にランスが現れ一瞬で男を叩きのめす

ランスは黙って志津香を見つめてから無言で立ち去ろうとする
志津香は何時も側に居るシイルが見えない事に気が着き「シイルちゃんは？」と尋ねた

その言葉を聞いたランスは志津香を抱きしめた

抵抗しようとした志津香だがランスから今までと違う感情を感じ抵抗を止める

志津香を抱いたままランスは呟く「お前だけは俺の前から絶対消えないでくれ」

この時志津香は何時もは毛嫌いしてる筈のランスを初めて愛しいと思う

志津香はランスをカスタムの新居に招き入れシイルが居ない理由を改めて尋ねる

ランスが澁々と語りだした事の顛末を聞き怒り出す志津香だが同時にホツとした

そんな自分を見透かされるのが嫌でシイルの代わりに私が一緒に住んであげようかと提案

もちろん雰囲気や和らげる為の冗談だったのだが

マリアと違う何かを感じシイルを失った寂しさからなのかランスは志津香を見つめる

無言のままかなりの時間が経ちそしてランスは心の奥底に有ったものに気が付いてしまう

「志津香となら一緒に住みたいけど良いのか俺で？」

いつもの志津香と180度違う反応にランスは戸惑いながら一緒に住みたいと答え

冗談の自摸りだった同居話を真に受けられかえって慌てたのは志津香である

かと言って引くに引けない事も感じてしまい今更冗談だったとは言えない

ランスと同居という事になれば当然男女の営みをする事になるのは明白で

それを回避する手段を考え悩む志津香にランスは

「お前を失いたくないからHが嫌なら強引に迫る事はしない」

「本当に？」

「ああ、自分で言うのも変だが俺もまだガキだったアイツを失って初めて気がついた」

「やっぱりシイルちゃんを愛してたの？」

「愛とか好きだとかそう言う存在とは違うと思うな」

「？」

「知ってると思うが俺には家族が居ない、だから妹・姉・母？みたいな存在だったと思う」

「そう」

「俺らしくないと思うかも知れないが色々悪さもした女と見れば見境なし手出してきたが

それは帰る処、シイルがいたからだ」

「・・・」

「シイル以上に失いたくない存在が居る事にさっき初めて気づいたそれは志津香お前だ」

「！」

「散々酷い事してた俺の言う事なんか信じられないだろうがこれ以上志津香に嫌われたくない

だから悪がきは卒業するもう女へ無理矢理迫る事もしない」

「・・・」

「かと言って俺の女好きはそう簡単に直らないしこれからも女の子達を抱くだろう

こんな俺でも志津香と一緒に住んでくれるのか」

「・・・」

独白に近いランスの言葉に志津香はランスが本当に変わった事を認めた

自分を大事な存在だと言いながら他の女の子も抱くというランスに多少呆れもするけど

それがランスと言う男だと何故か納得できてしまう自分が嫌になるが

それならば自分がランスにとって一番の女になり離れなくすれば良いとまで考えて志津香は

思考を停止してしまう

それではまるでランスの事を好きで自分だけの男にしたいと考えた事に愕然とする志津香。

嫌いな筈のランスを自分は好きだった、だからシイルが居なくなりホッと安堵したのだと気づく

ランスが約束を破って自分を強引に襲ったとしても志津香は既に何度もランスに抱かれており

何度目かの行為の時にはランスを求めている自分がいる事にも薄々と感じていた

志津香は自身の思いに気づいた以上ランスを受入れて供に進む事を決断する

「私はまだ良いけど他の子達に決して強引な事はしないでこの約束は絶対だからね

破ったらもうランスとは口も聞かないし二度と会わないから」

「ああ、判ってる」

「本当に本当よ」

「約束は守る」

「・・・お帰りなさいランス」

「ありがとう」

志津香との仲は進展したがショックはやはり大きくランスはその後にも冒険に1人で出掛て行く

そんなランスを見守り縛り付けもせず優しく送り出す志津香

この辺りがおそらく一緒に行こうとするマリアとの差なのかも知れない

この時期のランスの冒険は未来に重要な影響を及ぼす存在との出会いが幾つもあった

AL教クルック・モフス、不死鳥と呼ばれる冒険者アームズ・アーク、脅迫者クレイン等

アームズとは男女としての感情を持ちお互いにその強さを認め通りすがりの冒険者としてHをした仲でもある

冒険の旅も一区切り、ランスと志津香はお互いを真のパートナーと認めた

彼女との仲が進展する事によりランスは少し大人になった

約束もあり更には帰れば極上の女志津香が常に居るのだからか女へ強引に迫る事はしなくなった、

勿論ランスの女好きが変わる訳ないから合意ならば受け入れてしまふ処がランスらしいのだが

とにかく志津香が一番大切で唯一無二の存在になった事だけは確かである

夜の行為も相性が良かったのか志津香は急速に大人の女へと変わり始めている

その後も多くの女を抱いたがランスは志津香に勝る女は居なかったと後に回想している

ランスからシイルが受けた事と同じく恩恵も受ける事になるがそれはシイル以上に強力だった

彼女のLVが上がるだけではなく何故か彼女の持つ技能レベルま

でも上がったのだ

彼女自身はまだ気づいてないが例えば魔法レベルが2から3になつたりレベル0で存在が未顕現の

技能LVが1→2になって発現したりと不思議な現象が起きていた

(例として母親LVは無かったのにLV2になってたりする)

動乱への誘い カスタム市長ランス誕生

エレノア・ランはその優しさを付け込まれ一部市民(ほぼ他所から転入してきた者達)からの

理不尽な要求に心身共に疲れ果てていた

疲れているランをみたランスが市庁舎に乗り込み横暴な市民達を流石にランの立場を考えて

暴力はしなかったが毒舌で撃退してしまう、

そんなランスを見てランは光明を感じ女として身を任せても良い男として見ていた

マリアはそんな優しさを付け込まれていたランを応援する為に

ミリもこの様な時期には多少強引でも引っ張ってくれる指導者が居て欲しいと思い

志津香はランスを正業に付かせようと思ったがランスと言う男は生産活動には全く向かず

商売にも向いてない、冒険者として順序立てて物事を進めるのは上手くりーザス解放戦の様な

人々を動かす事には向いてる

そこから導き出したの答えは人々の指導者、ランの代わりに市長にする事で4人の意見が合い

ランスには内緒で市議会に根回し逃げれなくなる処まで追い詰めカスタム市長にしてしまう

最初は拒んだランスだが志津香達の泣き落としとミリの脅迫でカスタム市長になる

ミリの脅迫には志津香とランを寝取るぞというものが有りそれが

決定的だった

バイセクシュアルのミリにランスは気に入ってた女の子を寝取られた事があるのだ

ミリは志津香がランスと同居している事も知っていて切り札になると考えていた

ランもランスがカスタムに来て以降頼りにし抱かれ女として大切にされてる事を知っている

志津香はランとランスが深い関係にある事を気づいてたがランは姉の様な存在でありランスに

惚れてしまう理由も判るのでその関係を黙認していた

こうして市長に成ったランスだがそれはカスタム市民には激動と繁栄への始まりでもあった

最後までランスに着いてきたカスタム市民は苦難だったけれど充実した時代だったと語る

ロックアース、ラジールとアイスを政変により支配下に置きカスタムにも手を伸ばそうとし

カスタム新市長ランスの身边を探る(目的はヒララ鉱石の独占である)

市長ランスは傍若無人で女に目がないとの噂が多数集められたが影の支配者グラックはそんな奴が

カスタム市長になれたのか疑問に思い更に調査を続けるが結局判らず

懐柔する為に性奴隷として改造洗脳したあおいを買収済みのカスタムの役人を通じて送り込む

しかしあおいはランス達の優しさに触れ全てを告白してしまいランと志津香に保護される

保護されたあおいはゆっくりと時間をかけて治療され幸せな生活を送る事になる

ラジールの元市長処刑され秘書レイリイ・芹夏はカスタムに亡命し市長補佐官に抜擢される

この時期秘書Lv1を持つレイリイを秘書に出来たのは幸運だったとランスは語る

レイリイは不沈の女と呼ばれランスの魔の手を逃れてる数少ない女性だ

カスタム市長とロックアース代表がAL教団の仲介で会談

何人もの女や高額なお金等を融通しても良いと嘗てのランスならば即OKを出しそうな好条件

だが胡散臭さを感じたランスは断る

元々ランスにはお金に対する執着心は無く女を融通すると言われても既に志津香とランが居る

そして会談は決裂しグラックに操られたラジュールがカスタムに宣戦布告をする

これを機に自由都市諸国は動乱に見舞われる事になる

ハンナ、Mランドに突如宣戦布告し占領する（リアの影が見え隠れする）

市長運河さよりはカスタムに資金援助要請の為に訪れていて難を逃れそのままカスタムに亡命

ランスはおとなしくて性格も真面目で責任感も強い運河さ以上にランと同じものを感じたのか

亡命を受け入れる事を決めたがその事が原因でハンナと戦争になるとは思ってもいなかった

ジオ、レッドを急襲し併合（ゼスの影あり、更にマリスの影も）

ランス、その性格に似合わず防衛に徹しカスタム軍の編成を急ぐ

そして攻勢に出る前段階として火星を制圧し火星大王を殲滅これは後方の安全を確保する為と

火星大王がカスタム市民の女子を誘拐などした不埒な行いに対する報復でもあった

ロックアースとジオ、ゼスの仲介により連合してカスタムに当たる事を合意

ランス、亡命してきたセルからカスタムとレッド間の抜け道が有ることを知る

各都市間にはセルのような神官達や一部の冒険者だけが知ってる
抜け道が有り

ただ細く狭くて獣道のようなもので軍隊などの大人数が移動する
には適さない

ミリの友人セシル・カーナが傭兵として参加後第1軍の編成で正式
にカスタム軍人になる

セシルはカスタムに雇われる前ラジールに雇われてたが雇い主の
背後にDX会が居るのを知り

ラジールとの契約を破棄した、何故傭兵を生業にしているセシルが
契約を破棄したのか

それは親しい友人がDX会に嵌められ一家無理心中をして死んだ
のでラジールの背後に居る

DX会の為に戦うのが納得出来きず復讐の意味もありミリの誘い
もあってラジールとの契約を破棄

カスタム軍に参加した

セシル、ミリと共にラジール郊外でロックアース・ジオ連合軍との
戦闘が膠着状態となる

ランス、志津香・ミル・カスタム軍の一部を率いて抜け道を使いレッ
ドを急襲し制圧

元市長のランとマリアは万が一にもミリ達が破れた時を想定しカ
スタム防衛の為に残る

ジオ主力軍、レッド陥落に動揺しレッド奪還に向かう

ロックアース軍、セシル&ミリに敗退しラジールに立てこもる

ハンナからの使者が訪れ元市長さよりの引き渡しを条件に同盟を
呼びかけるも

カスタム市長ランスは同盟を拒否

ジオ、リーザスからの宣戦布告と同時に攻撃を受け陥落

(ジオをレッド攻撃に誘導し戦力を分散させたマリスの策略に嵌り防
衛力が激減していた)

レッド郊外に来てたジオ主力軍崩壊したがほぼ無傷のジオ主力軍
はカスタムに投降

ジオを制圧したりーザスに投降しなかったのはジオの人々の反
りーザス感情が強いからである

ラジールのロックアース軍、セシル&ミリに敗北しアイスへ撤退

ラジール・レット市民代表と有力者達の要請でランスは各都市の代
表となりカスタム連合が成立

ハンナ軍、ポルトガルに侵攻

カスタム連合軍アイスへ侵攻し制圧する、敗北したロックアース軍
は本国へ撤退する

アイスの市民代表、カスタム連合へ参加を表明

カスタム連合代表ランスは元々アイスに拠点を置いて活動してい
た人物であり

その傍若無人振りと破天荒な性格でも知られていて初めは躊躇し
たアイスの代表達だが

ハピネス製薬社長ドハラス・ハピネスがランスの秘められた英雄資
質を見抜き助言した事も

影響してカスタム連合への参加を決める

カスタム・ラジール・レット・アイスの四都市は後のカスタム公国
の母体となる

ロックアース、カスタム連合へ停戦の要請

実質犯罪者集団にロックアースが運営されている事を知るカスタ
ム連合は拒否

カスタム連合軍ロックアースへ侵攻、ロックアース陥落しアイスの
衛星都市となる

犯罪組織DX会構成員の多くは命を落としていたが主力メンバー
は生き延びゼスに拠点を戻す

第一部第二章 JAPAN

カスタム連合代表ランス、戦乱がひとまず収まり国力増強に務める理由はロックアース・ジオの背後にゼスがいた事ハンナの背後にはリーザが見え隠れする状況で

志津香達を護る為にも大国と渡り合える防衛力を持つ必要を感じたからだ

ハイパールビル観光化・火星の新Mランド計画等を発表したのが目的は冒険者達からの情報収集拠点

新Mランド計画は火星の立地条件を生かした市民達の最終避難地にする為

デンジャラスホールと闘神都市の間抜け道を使った逆侵攻に備え訓練地に見せかけての要塞化

AL教大神殿よりの使者連合代表を訪問ラジュール・レッド・アイス解放に謝意を述べた後

連合を一つの国家としてはと提案、ランス代表連合構成都市の各有力者達に意見を聞く

有力者達にも思惑が有ったと思うが全員が賛成、念の為市民代表者や志津香達にも相談する

極少数の反対意見も有ったがそれは感情的なものでしか無く最終的に賛成を得た為

ランスは熟慮の末提案を受諾する事にした

カスタム・ラジュール・レッド・アイス・ロックアース・火星・ハイパールビル

デンジャラスホールを直轄領とするカスタム連合成立

ハイパールビル・デンジャラスホールは元々連合の衛星都市なので問題無く公国領へ

ミ・ロードリング司教立ち会いでカスタム連合建国宣言、正式名称はカスタム連合公国である

総統就任と同時にミ・ロードリング司教立ち会いの下ランスと志津香の結婚式が行われる

マリアはショックを受けるがやがて落ち着きを取り戻しランスと志津香を祝福した

セル、AL教クルツクー司教の提言を受けカオスをランスに返還する

志津香、何者かに襲われるがミリとランの連携により撃退

ポルトガルを制圧したハンナはJAPAN織田家と通商条約締結

ハンナ軍、闘神都市へ侵攻（1回目）するも敗退

JAPAN織田家、勢力拡大JAPANの半分を支配下に置く

闘神都市、各国へ支援要請をするも地理的状况により絶望な状態に

（闘神都市に継がる道路がポルトガルしか無い為）

道路網調査隊、セルが言っていたデンジャラスHJ闘神都市間の抜

け道を冒険者達からも聞く

ハンナの勢力拡大に公国議会静観するもランス大統領の側近達は懸念

ランス大統領、公国軍から選抜した精鋭を率いてデンジャラスホールへ向かう

念の為セルを主将としたカスタム連合第1軍をレッドに移動させた

ハンナ軍、闘神都市へ侵攻（2回目）ほぼ制圧

ハンナは勢いに任せて公国に元Mランド市長運河さよりを引き渡

せと恫喝の使者を派遣するも

大統領代理のランは当然拒否

ハンナ軍、宣戦布告と同時にレッドへ侵攻するもカスタム連合第1軍の前に敗退

（この時アームズ等が公国へ義勇兵として参加している）

ランス大統領率いる精鋭部隊抜け道を走破し闘神都市を急襲ハンナ軍壊滅し残存部隊撤退する

闘神都市上層部の多くが処刑された為生き残った議会代表が防衛隊長サーナキアと協議

ランスへ個人的に恨みを持つサーナキアだがメリムや議会代表の意見を受け入れた

協議の結果賛成多数で全権をランス大統領に委ねる決断し公国への参加を表明

ミリ率いる公国第2軍レッドへ移動し防御を固めた後第1軍Mランドへ侵攻と同時にランス大統領率いる精鋭部隊がポルトガルへ侵攻し制圧する

ハンナ、JAPAN織田家に救援要請するも同盟国で無い為当然だが拒否される

公国・JAPAN織田家、相互不可侵条約締結

(ランス、織田信長と初めて会い意気投合するその後ランスは3日ほど大阪城に逗留した)

精鋭部隊Mランドへ侵攻ハンナ軍を連合第1軍との挟み撃ちで壊滅させMランドを制圧

ハンナ、公国へ停戦を要請するが公国議会拒否

ハンナ、リーザスに救援要請するもリーザスは静観の構え

ランス大統領率いる公国第1軍ハンナへ侵攻、ハンナは陥落し今回の主犯篠田源五郎は自害

ラジール・アイス・レッドの各有力者達、大統領の権限強化に畏れを抱く

元々ランスを大統領に認めたのは操縦しやすい人物と見た為であるが思った以上に英邁で市民や

軍人達にも大統領を支持する勢力が増え中には王の如く崇める軍人や市民達も出てくる

大統領に権限が奪われるのを恐れた処をリーザス女王リアの政略に踊らされクーデターを決断

(マリスは反対したがリアが強行、この頃からマリスとリアの関係に微妙な亀裂が入っている)

クーデターの前段階として傭兵を雇い始めたが有能な傭兵は公国に正規軍人として組み込まれ

残っていたのは二流の傭兵だけであるがそれでも各都市の代表達はクーデターを決行する

大統領より得られた経済的な繁栄と勢力拡大を否定する市民や軍人

達は無く支持を得られず失敗

クーデター首謀者達と従った者たちは公国から追放、この機会に首脳部は綱紀粛正を敢行し

不正行為を行っていた軍人や役人達を処分する

クーデター制圧後のカスタム連合公国は正式名称をカスタム公国に改称

(総統の独裁権が強化される)

信長、魔人ザビエルに乗っ取られ虐殺や粛清を繰り返すが何故か妹の香姫には手出しせず

織田軍、相互不可侵条約を破りカスタム公国の直轄領長崎に侵攻、長崎陥落

織田家を見限った人達ポルトガルへ亡命

(徳川千・来水美樹・小川健太郎等)

織田家支配下大名、上杉家・武田家・毛利家・伊達家・北条家・島津家等も反乱を起こす

織田軍、武田家・北条家を滅ぼし島津家・毛利家に侵攻し激戦を繰り返していた

北条家が滅んだ時の当主早雲は幼馴染みの南条蘭を逃したが蘭はすぐ織田軍に囲まれてしまい

反撃の為に力を使用してしまい朱雀(戯骸)に乗っ取られる寸前まで追い詰められるが

早雲から託され預けられていた帝リングが光り蘭の身体が包み織田軍から隠す

帝リングから放たれた黄金の光に包まれてる時蘭の頭に響く声がする

「長崎に行け宿命がそなたの願いを叶えてくれるだろう」と

光りが収まった蘭の体から朱雀は飛び去り己を取り戻した蘭は幼馴染み早雲の敵を討つ為に

長崎に行く事を決断する

何故帝候補でもない蘭を護る様な現象が起きたのか彼女が残した手記には不明とされてたが

原因は過去某女神が馬鹿やった後始末をプランナーがバランスを取った結果の一つである

復活したあの女性は魔王側だったのでメインプレイヤー側強化の為にランダムで選んだ一つ

女性が魔王側とは違うと判るがプランナーにはバランス的にどうでも良い事らしく放置する

ポルトガルが織田軍に侵攻されるも亡命者達の尽力もあり撃退、しかし小川健太郎が負傷する

カスタム公国第2軍を率いてランス大統領、ポルトガルに到着

織田信長が魔人らしいと聞いたマリスの要請で親衛隊長レイラ・グレクニーと見当かなみを

フリーの義勇兵として公国軍に参加させた、リアの為にランスへ恩を売る目的で考えた結果だ

ポルトガル城に魔人サテラ・メガラス襲来、未覚醒魔王美樹の要請で暫定ながらランスの配下に

日光とカオス会話

徳川千が公国軍参加後ランス直属の部下となり公国軍長崎に侵攻し長崎を奪還する

この時撤退しようとした山本五十六は捕虜に

ランスと南条蘭が出会う

長崎の市街を歩いていた蘭は浪人達に絡まれるがレイラが通りがかりほぼ一瞬で撃退

レイラの強さと美貌に啞然とした蘭は興味を持ち話しかけるもレイラは誰かを探していたのか

手を降って別れようとしたレイラにランスが現れ話しかける、蘭は軽薄そうな言動のランスに

侮蔑の視線を送るもレイラが親しそうに話し掛けるので驚いた

ランスとレイラが並んで歩く後を蘭が付いて行くと長崎城手前の空き地で先程の浪人達が人数を増やし襲いかかってきた、先程と違うのは弱いと見られたのか蘭を最初の的にしたこと

しかし蘭は光を浴びて以降何故かLVが上りやすくなり限界LV

38だった筈なのに

今の限界はLV48で咄嗟に札を取り出して反撃しようとするが慌てた為か札を落としてしまう

首元に刀を突き付けられて何も出来ずレイラもそんな状況なので手出しできずいたが

軽薄で弱そうで剣も所持してないランスが浪人達の前に立ち二ヤツと嘲笑う

侮蔑されたと怒った浪人達はランスを切り裂こうと刀を振りかざす

それを見た蘭が目を背けようとしてレイラを見ると平然とした態度でその様子を見ている

それを疑問に思っただけでランスの方に振り返って唾然とする、浪人達が既に全員倒されてたからだ

目を離したのはホンの一瞬時間になると数を十も数えられないくらい短い蘭は何が起きたのか

見逃したがレイラはしっかりと見ていた

切りかかった男の剣を躲し奪い取り反す動作で男を切り両隣に居た男達を横一閃更にもう一振り

残る二人を倒したあと残ってたのは5名だったが何処からか飛来した手裏剣で倒された

そう残る5名を倒したのはレイラと同じく派遣されていた忍者かなみの手裏剣である

「ランス君相変わらず男には容赦しないわね」

「当たり前だろうこんな馬鹿ども」

「殺したの？」

「いや、峰打ちだ」

「峰打ちって何？」

「刀の刃が無い方で倒す技術、アイツほど上手くは出来なかったがな」
「アイツ？」

「ああ、織田信長だ以前信長の奴に教えてもらった」

「珍しいわねランス君が人に教えてもらうなんて、やっぱり奥さん

貰ったからかな？」

「なんでそうなる」

「志津香さん良い女になったよねえ」

「アイツは元から良い女だ」

「クスゴ馳走様」

ランスはそこでレイラに誂われてると気が付き慥然とする

二人の会話を聞いていた蘭はランスを織田信長の仲間と勘違いして咄嗟に手元に有った匕首で

刺そうとしたがランスに躲されレイラには匕首を叩き落され喉元に剣を突き付けられる

「君、そうは見えないけど織田からの暗殺者？」

レイラが殺気を放ちつつ蘭に問いかける

「信長の仲間なら早雲の仇と同じよ」

返答を側で聞いていたランスは蘭に嘗ての志津香と同じものを感じて

「レイラさん取り敢えず剣を収めて、この子では俺を殺せないから」

レイラはランスに言われた事もあり素直に剣を仕舞う

蘭はランスの言葉に侮辱を感じたが実際ランスには勝てると思えず唇を噛みしめる

「君みたいな可愛子ちゃんを俺が忘れる筈無いから会ったのは初めてだと思いがいきなり

命を狙われる覚えはないぞ良かったら事情を話してくれ」

蘭はこれまでの経緯を話し公国軍への参加希望が受理されたので織田軍と戦う自摸りだと

蘭の話聞いたランスは嘗て志津香が思いつめてた様な危うさを感じる

父親を殺した存在に復讐する為だけに生きてた志津香と同じく余裕の無い生き方をしてる気がする

今でも志津香は復讐を忘れておらず機会があれば挑む筈ただ以前と違い自分で言うのも何だが

結婚して以降の志津香は余裕が出来たのか他の事にも目を向ける

ように成った

「蘭ちゃんと言ったな今のままでは信長どころか使徒にも勝てんぞ」

「なっ」

「覚悟が足りん」

「どういう意味ですか私はすべてを掛けてますアンタなんか言われる筋合いは有りません」

「だからさ信長達を倒した後の事を考えてないだろう」

「そんな後の事なんて考える必要ありません」

「早雲と言ったか殺されたやつの名は」

「そうだけどそれがなにか」

「早雲という男が何故蘭ちゃんを逃したのか考えた事あるのか」

「え」

「蘭ちゃんに生きていて欲しいからじゃないのか」

「あ」

「復讐を否定する気なんぞ無いが生き残る事を考えない奴は唯の特攻と同じで魔人は倒せん」

何体もの魔人と対峙してきたランスだけが語れる言葉にレイラが

頷く

「生き残る？」

蘭は早雲が最後に告げた言葉を思い出した

「君の気持ちは嬉しいけど例え家命で迎え入れた妻だとしても今から妻達と共に死ぬ事になる

だから僕の事は忘れてほしい、そうしないと君はきつと無茶をして生き残れない」

判っていた早雲は何が在っても自分を妻や側室にしない最後の言葉は彼の優しさだと言う事も

その早雲も小田原城が落ちた時妻達と共に自決して死んだ

生きる意味を失い途方に暮れた蘭は生きる意味を奪った信長に復讐する為此処まで来た

それをあの軽薄そうなランスという男は生き残る自摸りがない事まで見抜いていた

「どうして・・・」

ランスという男に質問しよとして顔を上げたがいつの間にかランスとレイラは立ち去っていた

蘭はランスの言葉に戸惑い悩み何をするでもなく公国軍から提供された宿泊施設に帰る

ランスとレイラは置き去りにした蘭の事を話しながら歩いていた
「ランス君言いたい事はわかるけどきつくくない？あの娘結構強いわよ」

「なんだレイラさんでも判らないのか」

「何を？」

「あの娘は生き残るつもりなんて此処に来る以前から持っていないぞ多分な」

「どうしてそれが判るの？」

「俺を信長の仲間と思って直ぐに攻撃してきたあの余裕の無さがな」

「でもそれだけで？」

「簡単な事、復讐と言う言葉と相手の力量を確かめず攻撃するなんて始めから命を捨ててる」

「ランス君、命を捨てて掛かることは誰でもあるわよランス君みたいに皆強くないからね」

「違う違うよレイラさん」

「何が違うの？」

「生き残ることを考えないと命を捨てて掛かることは全く別の話しだ」

「同じことじゃない」

「うくん俺は志津香やレイラさん見たく上手く喋れないから説明しづらいが生き残る為に」

手段を考えてから命を捨てて挑むのと最初から生き残る事を考えてないのは違うと思うぞで」

「あ、そう言うことねランス君が言いたい事は判ったわ」

「レイラさん俺に惚れ直した？なんならこのままどう」

「ランス君志津香さんに言いつけるわよ」

「それだけは止めてくれ」

国家の代表とリーザスの親衛隊長とも思えぬ会話をしながら長崎城の中に消えて行く

宿泊施設にたどり着いた蘭はランスという男の言葉が頭の中から消えてくれない

生き残る・生きる意味

考えに疲れて蘭は寝てしまい深い眠りの中で夢を見た

ランスと言う男に抱かれ喜ぶ自分ランスの子供を宿し生み育てている自分ランスに看取られて

死んでゆく自分

そこで蘭は目覚めた

「なんでこんな夢をしかもあの男となんて」

そしてハツと気がつく

早雲が自分を逃したのは生き残り恋をして子を生み育て寿命まで生きていて欲しいからとの

願いだったのかと

蘭は心の中で早雲に問いかける

〔新らたな恋をしろと言うことなの？〕

だが早雲は答ええない

蘭は再び眠りにつき今度は別の夢を見る

不可思議な存在から告げられたその声は以前織田軍から守ってくれた光の中で聞いた声と同じ

「汝の運命はその男と共に生きる事にあり汝の願いも叶えられる」

その言葉とともに現れたのはランスと言う男の顔

朝起きた蘭は寝不足と思えないほど体調がよい

準備運動を済ませた蘭は公国軍へ正式に参加し生き残る為の覚悟をして長崎城へ向かう

そこで蘭はランスが公国軍主将と知り驚く

ランスは蘭の参加を拒否しようと思ってたが僅か一日で雰囲気の変わった様子を見て了承する

山本五十六、徳川千や南条蘭に説得されランスの部下に

毛利てる毛利家の使者として公国軍参加を表明する

小川健太郎重体となり治療の為公国の病院に移送

来水美樹はサテラ・メガラスを伴いカスタムへ

カオスは美樹の魔王覚醒を封印

日光はカオスに代わり一時的に帯剣となる事を承知し契約をする

契約は日光が健太郎と再契約しても続き人間に戻ると解除された

がその後も愛妾として仕えた

公国軍、姫路に侵攻し姫路陥落

この戦いで蘭は全力を出すのを躊躇い危機に陥るが志津香やレイラの気転で難を逃れる

全力を出せない理由を理解しレイラに相談するとランスに解決法があるかもとの返事

長崎で見た夢でランスを回避していた蘭だが此処に至りランスに相談をしたが

話の流れが途中からおかしくなり結果何故かランスに抱かれる事に成ってしまう

激しい行為の疲れでランスに抱かれながら眠ってしまった蘭は夢の中で宿命の男がランスだと

告げられ全てを捧げ生きていく事を決意した
そして目覚めその手には鳳凰の羽を持っていた

公国軍、山崎の地にて織田軍と対峙するも魔人信長に敗退
織田軍、姫路に侵攻するも敗退、柴田勝家・森蘭丸戦死

山崎の地にて公国軍・織田軍再び対峙する
ランス&蘭vs魔人信長初対峙、両者負傷（蘭はランスに庇われて

無傷）により織田軍退却
ランス、セルの治癒魔法にて回復

公国軍、大阪に侵攻
ランス&蘭vs魔人信長と二度目の対峙

セル、志津香達の魔力を元に魔封印結界を完成、使徒達の暗躍を阻止
蘭が持つ鳳凰の羽が使徒達を焼き尽くす（朱雀は何故か居なかつ

た)

魔人信長破れ、魔血魂になる（美樹の手に渡りザビエルの魂消滅）
信長の妹香姫が織田家を相続し織田家降伏、

上杉家、誤解にて公国軍の一部隊を攻撃

公国軍と上杉軍、近江で対峙

ランスvs上杉謙信、ランス謙信の美貌に気を取られ敗退（謙信、ランスに一目惚れする）

誤解と判った上杉家、謙信自身が使者となり織田家に臣従を誓う

上杉家自体は織田家に臣従するも謙信個人はランスに仕える事になった

ランスと独眼流政宗対面、政宗織田家に臣従する

カスタム城内にて祝勝会が開かれるも志津香体調不良を理由に退席

レイラやアームズ、蘭達は共にカスタムに来てたがかなみは報告の為にリーザスに帰還

カスタム市民セル達の容姿が素晴らしいと絶賛多少邪な思惑もありお酒を飲ましてしまう

最初は断っていたセル達だがJAPANからの献上品で独特の清酒が気に入り飲み始めた結果

直ぐ酔っ払ったのはセルでランスに説教を始めるが周囲が気になるらしく

自分に充てがわれた部屋へランスを引きずり込み説教を再開したのだが

本人も何言ってるか解らなくなり何で私に手を出さないの？私はその間に魅力無い？

と言い始めて遂に衣服まで脱ぎ出す始末でランスが宥めようとしてもセルは聞き入れず

逆に勢いでランスを押し倒しHな体勢になってしまう

酔っているとはいえ何時も躲されてたセルが自ら乙女の美しい裸体で迫ってくる

こんなチャンスを見逃す男はまずいない、居るとしたらそれは真性

のホモだ

ランスはセルが気を失うまで彼女の全てを美味しく頂いた

セルが目覚めた時隣りにはランスが寝ており体内に残る多量の残滓を感じて記憶も蘇り

真っ青になるセル

何度も快楽の頂点に達せられ自ら積極的に受け入れた事まで思い出してしまい

聖職者の自分がAL教徒でもなく妻あるランスと性行為をした事で自己嫌悪に陥いる

聖女セル遂に陥落と言うより自爆で処女喪失

第一部第三章 リーザス

志津香は妊娠してる事をランスに告げる

ランスはその報告に一瞬我を忘れたが感極まったのか志津香を抱きしめ暫く離さない

家族と言うものに縁の無かったランスにとって本当の家族を得られる事になりましたや最愛の

志津香との間に出来た子供なのだからその喜びも一汐で直ぐラン達や側近達に志津香の妊娠を

伝えている

ランス総統の妻志津香の妊娠が公表され公国内から特にカスタム市民からの祝福の聲が上がる

リーザス女王リアは志津香妊娠の報に荒れ狂い志津香暗殺をかなみに命令するもマリス・かなみ

偶然に居合わせたレイラも反対しその場は収まるが激発していたリアは後先の事を考えず

傭兵忍者月光に志津香暗殺を依頼してしまう

傭兵忍者部隊による二度目の志津香暗殺未遂事件発生

アームズや謙信達の協力により志津香は主犯月光を取り逃がすが傭兵忍者の複数名を捕縛に成功

暗殺は阻止されたが報告を聞いたランスは激怒し真相の徹底的解明を命ずると同時に妻志津香や

愛妾達護衛の為に護衛隊創設を考えたが志津香達は皆戦力として期待できるほどの強者であり

戦場に行くこともある、だからと言って男の護衛者にするのは抵抗がある

悩んだ結果護衛隊創設は一時棚上げとした

捕縛された傭兵忍者の一人が催眠術による誘導尋問でリーザス女王リアの関与を肯定する

その事を聞いたランスは一瞬とても複雑な顔をしたそうだ

そして暗殺未遂事件の概要が公表されるとカスタム市民の怒りが

爆発する

公表された志津香暗殺未遂の真相にマリスはリアを問い質すが
アは肯定し問題無いと言うが

あのランスの気質から唯では済まないと確信したマリスはリアに
ランスと志津香へ謝罪するよう

強く迫りかなみもマリスと同じ事を考えたのかそうした方が良く
と同調したので以前から燻ってた

不満が爆発したりアはマリスを幽閉し見当かなみは解雇されてし
まい同じく暗殺の件を反対した

レイラにはヘルマン首都偵察の任務を与えてリーザスから遠ざけ
てしまい結果的に対カスタム戦に

関与せずレイラは戦後を迎える事になる

リーザス王国内も騒然とするリーザス解放戦で活躍した恩人志津
香への暗殺行為に納得した国民は

少ないから当然である

以前のランスなら即座に戦争だが国民を守る立場も有り詰問の使
者をリーザスに派遣したのだが

しかしその使者がリーザス国内で行方不明となる、後に使者はDX
会の手により殺害されていたと

判明する（この件に関してリーザスは全くの無関与だった）

ランス、リーザスとの戦争を決断

第1軍レッドに移動、第2軍ハンナに移動、第3軍ロックアースに
移動

カスタム公国ランス総統、リーザスに宣戦布告

第4軍Mランド移動後ジオに侵攻し制圧、間髪入れず第1軍ジオを
通過してオクに侵攻

前後して第2軍オークスに侵攻し制圧、同じく第3軍プアーに侵攻
制圧する

士官学校を首席で卒業したばかりのオールコートは少数部隊で
ノース防衛を命じられてしまう

これはオールコートの同期で次席だったラフアリア・ムスカの陰謀

も大きいがアールコートに

言い寄って振られた先輩士官の報復でもあった

アールコートと同じく才能等を妬まれてノース防衛に回された兵達と共にリーザス軍からも孤立

認めてくれたレイラ親衛隊長は何処かに派遣されてしまい自分達は捨て石の如くされていた

ランス率いる公国軍ノースに侵攻、アールコートの戦術もあり公国軍との戦闘は膠着する

両軍の睨み合いが続く中息抜きの意味もあり敵軍の陣容を確かめるべくノース郊外へ自ら偵察に

出たアールコートはランス総統と出会う事に

アールコートが防衛隊の指揮官で才能もあり逸材と見抜いたランスは公国にそんな差別は無いと

引き抜きに掛かるがアールコートは祖国を裏切る事は出来ないと答えたが動揺した事が丸わかりで

アールコートはレイラ親衛隊長ならどうするかと思わず口に出してしまうがレイラの名前が出た為

ランスは引き抜きを中断してレイラの話で盛り上がりアールコートはランス総統がリーザス解放の

英雄であり親衛隊長レイラの友人だと知る

またアールコートは男性恐怖症だが普通に会話できてしまうランスの側になら居たいと思い防衛隊

兵士達も無条件で受入れてくれるなら自分も公国軍に投降しても良いと話す

ランスはアールコートほどの才能を持つ女の子（しかも可愛い）を手に入れる事ができるのならと問題無しとして承諾する

アールコートがノースに戻り防衛隊の兵士達に公国軍に投降しませんがと問うと全員が賛同した

彼等が賛同したのはノース防衛に配属されてまだ短期間だったが若いアールコートに対して絶対的

信頼を勝ち得てた事もある、故郷でも有るリーザスは守りたい気持

ちは当然強いが軍の上官達等の

仕打ちでリーザス王国と言う国家自体への忠誠心を失っていた所
為もあつた

防衛隊員達は即座に行動に移し反対した役人等を拘束してノース
防衛の要である門を内側から開き

公国軍に投降した

アールコートはまだ若い軍師Lv2と盾防御Lv1・剣戦闘Lv
1（鬼畜王Verに改変）を持ち士官学校

校長アビアートルが100年に一人の逸材と認めていた程の天才
だ

アールコートを失った事はリーザス王国の崩壊を早める結果とも
なり、以降

ランスの軍事行動には例外は有るものの常時参謀として側にいた
事は有名で

後にランスは大陸全土を統一し大帝国を建国するがアールコート
は史上最高の

軍師として名を天下に轟かせる事になる

公国第4軍念の為ラジュールに移動

ヘルマン第1軍ログAに姿を見せるも静観の構え

スケールの黒の軍・マウネスの赤の軍、ヘルマン第1軍侵攻の噂で
動けず

ヘルマン第1軍の行動は全くの偶然だったが侵攻の噂はアール
コート提案の情報操作でもあつた

リーザス城の青の軍はリーザス城防衛の要であり出撃出来ず

サウスの紫の軍も青の軍と同様に出撃出来ず（盾となる部隊が無い
為）

イースの白の軍はオークスにいる公国第2軍侵攻阻止の為動けず
元親衛隊長でリーザス士官学校校長アビアートル・スカットは現在
の待遇に不満を持っていた

現役復帰を望んでいたにも関わらず士官学校校長と言うある意味
閑職に廻されたのだ

幾ら上申書を提出しても女王リアにより無視されてた為、周囲の者に理由を聞いてみたのだが

リア曰く男に抱かれた親衛隊員は不要との事、余りにも馬鹿げた理由に怒りを通り越し呆れる

教え子であり愛弟子のアールコートがカスタム軍に寝返った事で自分も疑われ拘束されるのは

時間の問題と思ってた処へ公国より引き抜きの話が来た、聞けばアールコートの推薦だと言う

あの自分の才能に自信が持てなくて内向的で男性恐怖症だったアールコートが寝返ってしまう程

ランスと言う人物は良い人なのか？ヘルマン侵攻時に会った時は唯の女好きでそれ程の人物とは

思えなかったがレイラが話してくれたJAPANでの人物像が真実ならば賭ける価値はあると考えた

幸いにして元夫は既に再婚しており後腐れなく別れる事が出来たしまだ幼い子供は自分より父を

選んで義母と成った女の方に懐き今では会う機会があっても他人行儀だ

多少の寂しさを感じるがそれも覚悟して夫と別れたのだから仕方無いと諦めている

だから今は独り身で動く事に問題は無くアールコートの推薦で勧誘に来るくらいだから変な事には

成らないだろうとアビアートルはリーザスを捨てカスタム公国への移籍を承知した

アビアートルの移籍は後々彼女自身と彼女を慕う人達の未来に大きな影響を齎す事になる

レッド市内セルの教会

私室で妊娠を自覚して考え込むセルがいた

神官でありながらAL教徒でも無い妻ある男の子を妊娠した事を恥じ産むか墮ろすか悩やんでいた

おなじ女性でもあるクルックー司教に相談するとクルックー曰く

愛情持つ相手との行為の結果の妊娠ならばそれは神の祝福であり出産は女の特権と論し生む事を薦める

以前のランスなら自分はたとえ酔っていても決して身体を許す事などはしなかつた筈だと思ふ

しかし確かに酔っていたけれど行為の全てを鮮明に思い出す事ができるほどだ

つまりあの時自分は我を忘れるほど酔ってない事になりランスに見せたあの痴態は何だったのか

もしかして自分は酔ってるとその事を免罪符としてあの行為を及んだとの考えに行き着く

そしてランスと言う男は自分にとってなんだろうと考え彼と辿つた事を思い出しながら思考の海で

司教が言つた言葉を思い出す

「愛情持つ相手」？

信仰に全てを捧げてきた自分は異性に恋愛感情を持った事が無く愛情持つ相手と言う事が判らない

改心させる人はまだ多く居たのに改心させる為彼と接してきたが何故拘つたのか

もし彼が改心していたら自分は他の人々を改心させる為に彼から離れたらどうか

彼と離れる事を想像すると寂しさと喪失感が湧き、改心したとしても離れる事は出来ないと思ふ

そうか自分は彼と離れる事を恐れ改心させると言う大義名分の下で側に居たのだこの感情が司教の

言う愛情かと思ひ、自分が彼に特別な感情を持つてゐる事は確かなのだらう

しかしこの先に進むと信仰心を超える何かに気づいてしまうからとこれ以上考える事を止めた

己の体内に芽生えた命が愛しく彼の子供だからか生みたいと思ふ気持ちも日々強くなつてくる

生みたいという心に忠実になつたセルは祝福されずとも良いとラ

ンスの子を産む決心をする

JAPAN各国から増援、ハンナ・ジオ・ロックアースに布陣

ノースの公国軍マウネスに侵攻

スケール又はリーザス城に向かわなかったのはランスの直感と
アールコートの戦略眼による

スケールの黒の軍は対ヘルマン戦における防衛の要で現状では動
くことはないと判断

万が一動いたらヘルマン第1軍のレリユーコフ將軍がその隙きを
見逃す筈無くスケールを攻撃する

更に言うならノース及びその周辺には公国の主力が揃っている為
黒の軍に敗退するとも思えない

リーザス城の青の軍は黒の軍や赤の軍と違い防御の代わりが居な
ければ動く事はできない

唯一代行できそうなのは金の軍だが司令官たる親衛隊長レイラは
ヘルマン偵察に赴いており

指揮統制に問題が有りやはり動かせない
かと言って白の軍をノース奪還に回せばイース及びサウス防衛が

疎かになる為動かせず
公国はノース保持の為に大軍を必要とせずまた商人達から仕入れ

た情報でマウネスの赤の軍は
補給に苦しんでいるらしくノースを奪還するための攻撃しないの

もそれが原因らしく
もしここでリーザス城を攻めたら形振り構わず黒の軍や赤の軍・白

の軍も首都防衛の為に動き
結果的に精銳が揃い簡単にはリーザス城を落せずカスタム側にも

甚大な被害が及ぶだろう
つまり現状ではリーザス軍各主力部隊は連携が取れておらず精銳

とは言え兵員数が少ない赤の軍の
マウネスが一番攻め安い状況なのだ

ランスvsリック
リック破れ負傷、捕虜となる

マウネスの赤の軍、公国軍に破れ降伏

(これは補給担当者の不正行為により予定の補給が少なかった所為でもある)

プアーの第3軍、リッチに侵攻リッチ陥落

第3軍、パラパラ砦に侵攻パラパラ砦陥落しリーザス南西領域ほぼ制圧

リア女王、イースの白の軍とサウスの紫の軍を交代させ白の軍にオク奪還を命令

第2軍、部隊交代の空きを突いてイース侵攻ほぼ制圧する

紫の軍、バランチに撤退

エクス、イース奪還をリア女王に上申するも受け入れられず

この時イース奪還は可能だったがリア女王が上申を受け入れず奪還のチャンス逃す事に

兵力を回復した公国軍、投降した赤の軍にマウネス防衛を任せノースに帰還

この辺がリックが心酔しバレスが尊敬するランスという男の凄さでもある

オクの第1軍サウス侵攻を見せる

独断でイース奪回に動こうとしていた白の軍、サウス防衛のため動けず

紫の軍にウエス・リーザス城を経由してサウスの白の軍と合流せよと指示

これはイースの第2軍を分散させる狙いもあるがバランチ・ウエス両都市を放棄するに等しく

リア女王の賭けだったが第2軍は結局動かず

ランスは冒険者としての経験から白の軍と紫の軍の合流を警戒していたので先手を打つ為に

カスタム公国総統としてリーザス王国に降伏勧告の使者を出す

リア女王、ランスの正妻としての地位を約束するなら受け入れると回答

女王の回答を知ったバレス・エクス等有力將軍達呆れ且つリアを見

限り白の軍と黒の軍は

現状のままカスタム公国に投降、紫の軍もウエスからバランチを経由してイースの第2軍に投降

これによりリーザス城は青の軍のみで西南東部が公国の支配下となり軍事的にも孤立無援となる

公国軍リーザス城に侵攻ランスは激戦を覚悟していたが青の軍は抗戦せず投降したが

代わりにチルディー親衛隊副隊長が率いた金の軍が奮戦するも同じ女性であるセシルやアームズの

投稿勧告を受けて抵抗を断念して開城、リーザス城は陥落し栄華を誇ったリーザス王国は滅び

旧リーザス領はカスタム公国領となる

リーザス城陥落寸前、リアに処刑される寸前のマリスはリックの乱入により救出される

ランスの仲介でリックの気持ちを知ったマリスはリックの妻となる事を承知する

リーザス敗戦亡国を知り急遽ヘルマン偵察から帰還したレイラはリックとマリスの婚姻を知る

レイラ失恋

知らない内にライバルを蹴落したランスは失意のレイラを抱く

レイラはJAPAN戦で知ったランスの実像に女としての自分が惹かれ始めていた事もあってかその身を委ねる事にも抵抗は無かった

元々レイラはランスを嫌いでは無いがリックへの恋心を自覚していた為ランスは2番め存在だった

志津香の事を思うと胸が痛むがこの喪失感を満たしてくれる存在はランスしか居なかったから

ランスが冗談で迫ってきた時、引けない状態に持ち込み抱かれる事にランスとの行為は三度目だが

以前のランスと違い全身を優しく包む様な行為にレイラは快樂の極みに到達し気を失う、目覚めた

時には喪失感を上回る充足感を得てこの男の側に居たいと思うようになつていた処をランスから

愛妾に成らないかと聞いてきたので躊躇わず承知した

レイラを得ると言うのはランスにとって彼女を知つてからの夢であり公言もしていた本人の承諾も

得たのでランスは妻志津香へレイラを愛妾にすると告白した

志津香にとつてレイラは強力なライバルであるがランスの望みを知つていた為渋々認める事に

ランスは王に即位した後で多くの愛妾を持つ事になるがランとレイラが最初の愛妾である

(ランスは皇帝位に即位後愛妾という呼び名は差別的だとして公妃と改めらる)

リーザスとの戦争はレイラを得る為だったと巷で噂されるほど才色兼備の女性がレイラである

レイラを得た事で公国に参加する事を躊躇っていた旧リーザス軍特に女性兵達がレイラを慕い

更にはアヴァートルが移籍していた事により参加する女性達が増えて行く

バレスやリック・エクス將軍達がランスへの臣従を誓つた事も影響して旧リーザス軍の大半が

女性兵達の行動に釣られる様にして公国軍に参加する事になる
(中にはチルデーの様に見当違いの邪な野望を持って公国に参加する者達も居たのだが)

旧リーザス領統治を円満に行う為の必要もありまたマリスの懇願もあつてリアは死罪を許されて

離れ宮島の主となりリーザス王家でリアに近い貴族達や反カスタム的な人達も強制移住する事に

離れ宮島は人口3000人以下で政治的・軍事的・経済的・位置的にもに全くの無力な都市であり

リーザス王家直系の血が絶えたら公国に併合する条件でリアに与えられた小都市である

その後リアはランスに対抗する様に何人かと結婚し妊娠出産したが皆凡庸な子だったらしい

AL教法王よりの使者がカスタム公国へ到来しランスが王位に就く事を提言する

カスタム公国内各都市の市民代表が市民の賛成意見多数として王位を承認するとの宣言を受け

公国は共和制より君主制へと移行しランスは即位しカスタム公国王初代ランス一世となる

ランスはマリスを政治補佐官とした

筆頭秘書だったレイリイの苦勞に報いる為もあり彼女を内務筆頭補佐官に指名しましたレイリイのみに王の特別秘書権限を与えたのである

この事は後に誤解を生みレイリイがその肉体で王を籠絡してるとの噂になるが王は笑って否定した

実際この頃までレイリイは良い女なのに不思議な事にランスの魔の手に掛かって無かったのだから

戦争が終わりランスが王位に就いてカスタム公国民達も落ち着きを取り戻した頃に王妃志津香が

王子アストラルを出産、後のランス二世である

ランスは王子の出産時普段からは想像できないほど狼狽えてミスの連続で日光をトイレに忘れたり

気を紛らす為呼び出した愛妾達が複数重なった挙げ句呼び出した事自体を忘れ放置したりと

色々と失敗してる

出産の産声を聞いた時、ランスは思わず分娩室に飛び入り少し寢れ気味の志津香抱きしめて

「ありがとう」

と泣きながら連呼したと言う

ランスにとっては初めての子供では無いのだがダークランスの時は後から聞かされた事もあり

ランスが変わる以前だった事もあってかそれほど感情が湧かな

かったがフェリスを大切にしよう

考える様になったのも事実

ランスにとって志津香は特別な存在だから色々な感情が押し寄せ
てきて志津香と子のアストラルを

何が有っても護り通すと決意した

尚、アストラルの公式姓名はアストラル・魔想である

ランスの姓は本人ですら不明の為に今後生まれてくるだろう子達
も母親の姓となる

(本名はランス・クリア(たぶん)だが本人も確証が無い)

志津香に遅れる事約一月後セルはランスの子サイをカイズのク
ルツクー司教の私邸で出産した

セルが己の本拠地レッドではなくカイズで出産したのは神官の立
場を考慮したからだだがそれは全く

杞憂に過ぎなかった何故ならセルへの旧自由都市市民達からの信
頼は絶大で父親が不明の子でも

セルが生むと決めた以上は正しいと些か妄信的なほど信頼されて
たからだ

また生まれた子の父親が誰か予測できていた人物はAL教司教ク
ルツクーのみだが再会してないから

無理もないが嘗て迷宮で出会った冒険者とカスタム公国王が同一
人物だとは気づいていない

セルの心配事を減らす為に自身の私邸で出産する事を薦めた人物
でもあり産まれた子供サイに神の

祝福を与えたのもクルツクー司教である

クルツクーが何故AL教の教義に反する様な事をセルに勧めたの
か

それはクルツクーがAL教の女性神官が許されない出産行為につ
いて以前から疑問に思ってたからで

AL教本教義は女性信者の性行為や出産を否定せず女性神官の出
産も否定してないのだ

しかし女性信者を教え導く神官達は前段階則ち異性と性行為をして婚姻すら罪だと教えている

性行為の快楽に溺れ本来は子を成す為の行為である事を忘れるは罪という認識は経験の無い(?)

クルツクーにもあるがセルの様に不確かながら愛情を持つ相手と性行為をする事もあり結婚して

出産したいと思ってる女性神官も多い筈なのに何故神官達は否定し続けるのかそれは男性神官達の欲望から来ると気づいていたからだ、清らかで無垢な女性神官を奴隷扱いし中には性行為を強要

する司教や神官がいる事も知っていた

自分自身も盲目的にAL教を信仰してた元司祭の母からそうして生まれたのだから

母は私を受胎した時の事を多くを語らないが時折見せる父を憎しみの目で見える態度でおおよそ判る

美しく聡明だった母はおそらく父に望まぬ行為を強要されて関係を結び結果自分を受胎し出産した

母から幼かった自分を見るその目に冷たさを感じた事も時折ある

今の自分と違い当時の母はAL教が絶対で神の代理たる父達を疑う事すらしなかったのだろう

母は父を疑わず抵抗しなかった事を後悔していたのだと思う、亡き母が私に残した最後の言葉

「神の教えは正しいけれど神の代理が正しいと思わないで」

が私はAL教の現状だと思ってる

だから自分はなるべくAL教上層部に関わらず底辺から改革しようとしてきた

バランスブレイカーを回収する振りをしつつ冒険や布教の旅に出ていたのもその結果である、

皮肉な事に父法王のおかげか数ヶ月前まで司祭でしかなかったが自分は今司教の一人となり

その立場を有効に使い内部と外部の双方から改革を進めるつもりでいる

物語開始時（LP3年）の年齢（改定）

物語開始時LP3年の年齢（登場順ですが多少の前後は大目に見てね）

リーザス戦終了時はLP5年頃になりますので全員+2歳

プロローグ1&2・カスタム・自由都市地帯制圧戦・JAPAN戦・リーザス戦の登場人物

ランス19歳（主人公の冒険者↓?）

女達

メデイウサ1017歳?以上（魔人）

ALICE3182歳?以上（女神）

クエルプラン3182歳?以上（女神）

生き返った謎の娘?歳（肉体年齢19歳）

シイル・プライン18歳（ランスの奴隷・死亡?）

ルシアン・カレット13歳（偽名・ヘルマン貴族?の娘）

ペルエレ・カレット15歳?（ルシアンの召使いでスパイ・年齢不

詳）

エレノア・ラン21歳（カスタム四魔女・元カスタム市長）

マリア・カスタード19歳（カスタム四魔女・魔法技術オタク）

魔想志津香19歳（カスタム四魔女・ランス運命の正妻）

クルツクー・モフス19歳?（AL教司祭↓司教・年齢不詳）

アームズ・アーク20歳?（冒険者↓カスタム軍人・年齢不詳）

ミリ・ヨークス21歳（薬屋店員↓カスタム軍人）

ミル・ヨークス11歳（カスタム四魔女↓カスタム軍人）

レイリイ・芹夏25歳（ラジール都市長の秘書・ランスの秘書官）

セシル・カーナ21歳?（傭兵↓カスタム軍人・年齢不詳）

セル・カーチゴルフ18歳（真面目過ぎるAL教の女神官）

ミラクル・トー25歳?（世界征服の野望を持つ魔法使い・年齢不

詳）

サテラ158歳?以上（ツンデレ魔人）

来水美樹17歳（逃亡中の未覚醒魔王・肉体年齢13歳?）

日光1511歳? (聖刀日光・元エターナルヒーロー)

マリス・アマリリス25歳 (リア女王の侍女・リーザス影の宰相)

レイラ・グレクニー22歳 (女剣士・現リーザス親衛隊隊長)

見当かなみ17歳 (リーザス女王直属の忍者・不幸体質)

南条蘭17歳 (陰陽師・南条家当主)

山本五十六19歳 (弓兵・次期山本家当主の生母予定)

徳川千(戦姫) 18歳 (槍兵・徳川家本来の姫↓カスタム軍人)

毛利てる22歳 (毛利3姉妹の長女↓カスタム軍人)

上杉謙信16歳 (剣士・上杉家当主↓カスタム軍人)

織田香 (香姫) 12歳 (織田信長の妹・改変本来は10歳) (注1)

リア・パラパラ・リーザス18歳 (リーザス女王・自称ランスの妻)

アールコート・マリウス16歳 (天才軍師・改変本来は13歳) (注

1)

アビアートル・スカット27歳 (前リーザス親衛隊隊長・士官学校

校長)

チルデイ・シャープ15歳 (親衛隊小隊長↓副隊長・改変本来は1

2歳) (注1)

第二部第一章ゼス崩壊の序曲

志津香が第一子を出産し子育ての為軍務と政務から離れランスに構ってくれない為

ラン・レイラ・アームズ・蘭・千等愛妾達と甘く戯れる機会が多くなる

たとえばブラックコーヒー飲みたくなる会話

ランとの会話

「ねえランスくん」

「なんだエレノア」

「！え」

「？」

「今までそんな呼び方しなかったのに」

「ああその事か、ほらエレノアと言う名があるのに皆姓で呼んでるだろう」

「うん」

「今更だが赤の他人じゃないんだし、エレノアを独占した気分になれるからな」

「ランスくん」

「そうそれだ、もう俺はエレノアの特別なんだ呼びすてもいいぞ」

「ラ、ランス？」

「おう」

「きよ、今日も寝れないのかな」とランスに抱きしめられて真っ赤になるエレノア

「当たり前だろう」

二人の会話を聞いていたマリスはその甘ったるい雰囲気当てられてランスの執務室から逃げ出す

そんな話を執務室でするなよランス

マリスや透琳が参加した事で政務や軍務が安定したランスは冒険心が疼き、アームズの弟スランを

名乗りほぼアームズと一緒に迷宮探索に出かけていたが単独で出

かける事も多くウルザやプリマ等

と知り合いアイスフレームを助けたりしていたのもこの頃だ

ランス、マジル・ランフトと出会いウエンリーナーと再会する

ウエンリーナーに会う為一人で聖女の迷宮に来たスランは負傷して魔物達に囲まれていたマジルを

魔物を倒して助ける、マジルが迷宮に来たのは聖刀日光と聖女モンスターを見つける為だったが

恋人が家の政略結婚に抵抗もせず受け入れた事で失望し別れてしまい自棄になった所為もある

意外と重傷なマジルを庇い彷徨う二人の元へ驚く事に聖女モンスター・ウエンリーナーが現れた

何故マジルが驚いたと言うと聖女モンスターは人間嫌いと言われ逢う事すら出来ない存在なのだ

そんなウエンリーナーが自ら二人の前に現れスランに話しかけてきたのだから驚きもするだろう

「お兄ちゃんの恋人？」

その一言だけでスランという男が何度もウエンリーナーと会って事を理解したマジルだがスランの願いを受け入れマジルを治療してくれたので再度驚く事になった

マジルはスランへ興味と好意を持つがそれを認識した瞬間二人は電卓キューブに飛ばされてしまう

言い難そうなスランから電卓キューブの意味をマジルは聞く事になったのだがそれも当然で初めて

会った女の子に自分が運命の男と言えるのは男と言うより人としてどうかしてると思うだろう

スランが嘘を付いてると思えずその話を聞いたマジルが真剣に見つめると自身の小指からスラン

の小指を繋ぐ赤い糸が見えた事でスランの話は本当だと思っってしまうのは仕方あるまい

マジルからしてみればスランは運命の男で必要以上に意識をして

しまったのも当然、

元恋人とマジルが別れたのは必然でありスランと出会う為に別れたのだと思い込んでしまう

そんな思い込みが激しい処は彼女の両親特に父親譲りかも知れない

雷王の指輪を手に入れたマジルとスランの二人は身体を休める為に入った宿屋で結ばれた

異性との経験が無くまだ処女だったマジルから行為を求めたのに理由は理由がある

自身を取り巻く状況から自由恋愛は二度と望めないと判っていたので大切なモノだけは好きな男へ

捧げたいと思えばスランに身を委ね行為を求めたのだ

情熱的行為の後再会を約束して別れた二人だがスランを見送るマジルの瞳は涙で濡れていた

再会を望んでも己の地位により魔法使いでも無く一介の冒険者スランとは会う事すら出来ない

マジルとは仮の名でマジック・ザ・ガンジーが本名である

そう魔法大国ゼス国国王ラグナロックアーク・スパー・ガンジーの一人娘マジック王女なのだから

ゼス王国では魔法を使え無い者は奴隷も同然で上級貴族に会う事すらも簡単に出来ずまして王女

ともなればほぼ不可能でありこの涙は再会できない運命の男への別れの涙だ

しかし天命は二人の再会を必要としていた、そしてマジックに新たな運命を与える事になる

ラグナロックアーク・スパー・ガンジーゼス国王、漫遊から帰還し久しぶりに娘マジックと

会話をしますがマジックはスランの事を忘れられずに何か上の空でいた、マジックの雰囲気は妙に

大人びていて違和感があったのでマジックの親衛隊員の一人を呼び出して何か有ったのかと問うと

恋人関係に有ったアレックスと別れたらしいとの答えだが父としての勘がどうもそれだけでは

無い気がするので何処か体調を崩しているのかと思ひ魔法医療の専門家へ娘を見させた結果娘の

妊娠が判明する。

己が妊娠してる事を聞かされてマジックは驚くがスランの子だと直ぐ理解して内心喜んでいたが

ガンジー王は多少の動揺も有ってかマジックに相手はアレックスなのかと強く問い詰める

マジックと付き合っていたアレックスがプライン家の娘と婚約した事をガンジー王は知っており

もしアレックスの子なら不義の子に成ると更にマジックを問い詰めるがアレックスや不義の子では

決して無いと何度も否定する

しかし父王はならば子の父親は誰だと強く尋ねて来て堂々巡りとなるがマジックは魔法を使え無い

唯の冒険者スランが父親とは言えないので答えられない

何時までも子の父親名を告げないマジックの態度に父王は激高してアレックスを呼び出して問い

質すと言う

確かに父親名を告げない自身の責任でもあるが己の娘の言葉を全く信用せず否定したアレックスを

呼び出そうとする父王に失望したマジックは父王がアレックスを呼び出そうとして部屋を出た時

父の机に王族としての証と四天王を辞任し王族としての全て捨てると書いた手紙を置き誰にも告げず王宮を飛び出してしまひその日以降ゼス王国内でマジックを見た者は誰もおらず行方不明に

ゼスを飛び出したマジックはラジュールに拠点を構え再びマジル・ラソフトと名乗りお腹の子の

父親である冒険者スランを探す事になる

突如辞任したマジックの代わりにゼス四天王に選ばれたのは皮肉

な事にアレックスの婚約者である

プライン家の娘シイルだった

奴隸として売られた以降の記憶を失ったシイル・プラインその人である

(ランスのおかげでLv上がったからね)

河で死ぬ寸前だったシイルを偶然助けたのはヴァルス家の当主でありアレックスの父親で助けた

娘がプライン家の娘と判り人柄も気に入って息子の結婚相手にと望み二人の出会いを演出

アレックスに想い人マジックが居る事は知っていたのだが王は二人の仲を決して認めないだろうと

気づいてたので多少強引であつたが婚約させたのだ

アレックスが悩みながら婚約を承知したのはマジックの態度も大きく影響したのだ自分を好きで

居てくれる事は理解していたがキスや抱擁を許してくれるのにその先に進む事を許さない。

自分も男だ先に進みたい欲望も当然有り、マジックにそれとなく匂わしてみたものの王女としての

立場謂えかマジックは結婚できたらとしか答ええない

お互いの考え方から来るすれ違いが大きくなつてきた時にシイルを紹介され付き合つて見ると

大人しく可愛い娘で才能も有り段々と心の中を占める思いがマジック以上に大きくなつて来た頃に

正式な婚約話が来た時にアレックスは逡巡しながらも婚約する事を承知した

シイル・プライン、ゼス四天王就任と同時にアレックスと結婚シイル・プライン・ヴァルスとなる

シイルの結婚式で不可思議な事が起きる普段愛用してた魔法補助武具の白い手袋が結婚の誓いを

交わした瞬間に皆の前で突然消失してしまう

効力を失った魔法武具が消える事は有る為特に問題視され無かつ

だがシイルは大きな喪失感と共に

何か判らぬ不安を感じていた

公国の勢力増大に付いてゼス貴族・ヘルマン宰相ステツセル・AL
教司教トータスがカイズで密談

公国の勢力増大に懸念で合意、トータス達は旧リーザス・旧自由都
市国家群の反勢力を焚き付けて

内乱を起こさせようとするのだがJAPAN各国についてはAL
教やゼスなどの影響力が全く無いので断念

旧自由都市諸国領・旧リーザス領でランス王が反AL教徒との噂が
流れ公国市民・軍人達は動揺し

公国内に不穏な空気が流れノース・ロックアース・ジオ・レッド・
アイズ各都市で暴動が発生する

カイズでの密談内容を知った司教クルツクーはランス王に会う為
身分を偽りカスタムに向かう事に

クルツクーが何故カスタム王に会おうとしたのかそれはクルツ
クーが目指すAL教布教の為である

彼女は統一された一政体の世界で平和理に穏やかな布教を考えて
いたからでカスタム公国は大陸を

統一する力が有ると判断していた、宗教・職業・男女・能力の種類
なので差別せず才能ある人達を

積極的に登用している、また公国王が元は一介の冒険者らしいのだ
が魔人を何度も退けている上

戦争にも強い王だ

敬虔なセル神官の生んだ子供の父親はおそらく公国王でだからと
言うのでは無いがAL教の敵対者で

ある筈もない

ならば公国王による大陸統一を妨害する勢力に邪魔させる分けに
は行かない、後押しの意味もあり

クルツクー司教はラジールの教会で噂は敵対する国家の陰謀であ
り公国王は敵対者では無いと声明

この時トータスの関与を伏せたのはAL教の為だった

旧自由都市圏で絶大な信頼を得てるレッドの神官セルもクルツクー司教の声明を支持する

魔人ラ・サイゼルがLP探索の為カスタム城に襲来するもランス王に撃退される

魔人撃退の報とクルツクー司教の声明や神官セルの発言もあり市民や軍人達も落ち着きを取り戻す

クルツクーはラジールで何者かに襲われ拘束されるが居合わせたマジルの協力で撃退する

マジルは王女時代の持ち物を一切持ち出さず迷宮探索で得た宝物を資金に変えていたのだが

身重でも有る為に冒険の旅にも出られず生活資金が底をつき始め途方に暮れていた

その状況を聞いたクルツクーが一時的に従者と成らないかと提案しマジルは仮従者として行く事に

暴動指導者達が治安部隊により身柄を拘束されて暴動は治まる
拘束された指導者達の取り調べでゼスとヘルマンの関与が明らか

になりカスタム公国軍はゼス
ヘルマンに対して臨戦態勢を取る事になった

この件でオズ・トータスはうまく立ち回り関与の証拠を残していない

ランス王の下にシャングリラからの使者が来てアールコートとレイラの部隊と共にシャングリラへ

向かい
クルツクーはマジルを連れランス王の下に向かうがすれ違いで王

はシャングリラに行ってしまう
クルツクー司教がマリス・志津香と会談後ランス王帰還までカスタムに逗留する事を決めたのは

自分がトータスに狙われる可能性があり身重の彼女を巻き込みた

くないと思っからだ
マジルの事情を聴いたアームズはマジルのお腹の子の父親がラン

ス王ではないかと気が付いて

志津香へ自分の弟スランを名乗ってるのはランス王でありマジルの子の父親は王ではと示唆する

アームズの話聞いた志津香はマジルの容姿を思い出す確かにランスなら手を出しそうな美少女だ

マジルに嫉妬心を覚えるが王妃としての立場を思い出してランスの子の可能性が有るならばと

カスタム城内に賓客用の客室を用意しアビートルに二人の護衛を依頼する、

アビートルは多少性格に問題は有るが能力と責任感も強いチルデイを護衛役に指名する

ランス、ハウセスナースと出会う

性格が丸くなってきたランスでもシャングリラ王ルチェ・デスココ387世は不快な存在だった

シャングリラ王宮の召使い達をランス王の愛妾にどうでしょうかと言ったのはデスココからだ

ただし代わりにレイラを一晩貸してくれと言われてランスは怒るがアールコートに穏便にと言われ

デスココの話しを無視する事にした
しかしその召使い達が魂の無い人形だと初めに気づいたのは日光、それをランスに伝えようとし処

デスココがレイラに色目を使い口説こうと言い寄っていた

レイラは誰が見ても美女でありランスとの男女の行いもありそのスタイルも女らしくなった

清楚な雰囲気を保ちながら妖艶さもあるレイラに惹かれるのは仕方無いと我慢していたが

召使い達が魂の無い人形だと日光が小声でランスに伝えるとレイラに色目を使った事もあってか遂に怒りが爆発して両者は対立しデスココは切り札アラジン呼び出しランス殺害及びレイラを

自分の虜にせよと命ずるもアラジンは返り討ちに遭いランプの中に逃げ込んでしまう

何も出来ないデスココを殺害した後ゼスの魔法使いが作ったホームクルスのシャリエラだけは魂を

持っていたのでアラジンへの命令権がランスへと受け継がれた事を知るとアラジンを呼び出して

最後の願いを使いシャリエラを人間に生まれ変わらせたのだが

そこでランスは困った事に気が付くデスココが死んだ事でリッチからの路が閉ざされたのだ人間になったシャリエラに何か方法はなにか尋ねると王宮の地下にその秘密があるのではと示唆する

ので王宮の地下に向かったランスはハウセスナスと出会う事になる

敵対的なハウセスナスだったがウエンリーナーの事を話すとランスが基本優しい人だと思いい態度

を和らげる

カスタムまで来ないかと誘われるもハウセスナスは人間が多くいる場所は馴染めないと断るので

ならばとこのシャングラ王宮を住処にしてはと提案をしてウセスナスもそれを受け入れた

王宮に秘蔵されていたアイテム「無言の泉」でシャングリラが公国に帰属した事をアールコートや

レイラ等、極一部を除いた公国軍兵に口外や示唆すら出来無いと言われた「言わざるの魔法」を

掛け、軍の一部をシャングリラ防衛と護衛又はハウセスナスの世話係として残りレイラ達は帰還

シャングラは王直轄の機密都市になり後に王宮を内部に含んだ史上最大のアストラ城が建設される

ランスはレイラ達の反対を押し切り1人でペンシルカウに向かいクリスタルの森に入って複数

カラー達が拘束されているのを発見、商人に雇われた傭兵達と戦闘になるが少女達を庇いながら

戦う為苦戦するも見当かなみの参戦で敵を全員倒す

かなみはリーザス崩壊以前にリアの命令に反した為解雇されてた

がマリスがランスに仕える時に

誘われて身分はアビートルの部下だが王妃志津香の直属となり
シャングリラへ向かうランスの

護衛を志津香に指示されて此処まで来ていた

かなみにとつて j a p a n 戦以来久しぶりの再会、あの時南条蘭を
突き放すような素振りを見せながら

守って見せたランスは本当に変わったと思う

あの日からかなみは今のランスに惹かれて行くのを自覚していた
しランスも森が放つ開放感からか

二人つきりに成れば当然そんな雰囲気にもなり志津香に悪いと思
いつつ抱かれる事になみは幸せ

を感じてしまう

ランス、リセットと初めて会う（注1）

ペンシルカウに到着しパステルに会おうとすると幼いカラーが現
れランスに纏わり付いて来る

幼いカラーに導かれた先には女王パステルが居た

パステルは当然の如くランスに魔法攻撃し戦闘になるが幼いカ
ラーの執り成しでその場はなんとか

収まりその後色々あってパステルと和解し幼い子があの時の子供
で名をリセットと知る

ゼス王国内でマジック王女疾走の噂が流れトータスはチャンスと
策略を練る

マジック王女は女好きで知られるランス王が配下に命じて王女を
攫い幽閉したとの噂を流し

王へ事の真偽をカスタム公国に問いただすべきだと配下の神官に
上申させる

その上申を真に受けたガンジー王が使者を公国に派遣するも使者
は公国領ロックアースを通行中何者かに襲われて重傷

ゼス上層部は独断で東部方面遊撃のウスピラ・真冬将軍にカスタム
公国への攻撃を命じるが

ウスピラはこの命令に何故か違和感を感じたのだが再度の命令が来てパラパラ砦に侵攻して制圧後

リツチに向かう、本来リツチが拠点の第四方面軍はまだマウネスで部隊再編成中の為救援出来ず

リツチ守備隊は苦戦する、リツチ経由で帰還しようとしたレイラとアールコートの軍が援軍として

入るが両軍とも部隊数や人数が全軍でない為に戦闘は膠着状態となる

ゼスの東部方面軍がリツチに到着し攻勢に出ようとした処、両軍共魔人レイの襲撃を受け多大な

被害を出し混乱する

ランス王ペンシルカウよりリツチに帰還とほぼ同時にリックの第四方面軍が到着する

大陸最強の攻撃力を誇ると言われるリック軍が現れた事で魔人レイの襲撃に動揺してた東部方面軍

及びウスピラ軍はパラパラ砦に撤退する

ランスvs魔人レイ

魔人レイは破れて死亡しメアリーもレイの死の衝撃で死亡してしま

う
ランス王は二人の事をサテラから聞いていたので遺骸を同じ墓に入れて丁重に葬るよう命令した

ランス王、リツチの守備隊から別働隊を編成しシャングリラへ向かわせ防衛の為に残っていた

レイラ軍を引き上げさせる

第四方面軍の編成が遅れた理由が補給担当のザラック達が補給品の横流しや横領していたと判明

ザラック達が碌でもない人物と知り解雇して追放しようとしたが第四方面軍副官でもあるメナドが彼等を庇おうとしたのだがそのメナドにザラック達は罵詈雑言の言葉を浴びせたのでランス王

は激怒しザラック達の罪を明らかにした上で王自ら剣を振るい処刑した

メナドはザラックと付き合い始めたばかりでまだ汚されておらずその事は幸運だったと後に

語っている

この事で公国2回目の綱紀肅正が行なわれ汚職役人や汚職軍人が追放される原因となる

セシル軍・エレノア軍・マリア軍・ミル等がリッチに到着、ランスはオールコート・リック軍

レイラ軍を率いてパラパラ砦奪還に向かいオールコート軍は指揮官不在となりリッチの守備に回る

ランス&リックvsサイアス&ウスピラ

リックがサイアスを倒しサイアス負傷、ウスピラもランスに破れ捕虜となる

負傷したサイアスは東部方面軍と共にアダムの砦へ撤退、謙信軍がパラパラ砦に到着する

カスタム公国、ゼス王国に宣戦布告

ランス王はリック軍・レイラ軍を率いてアダムの砦に侵攻

サイアスとウスピラの敗北で戦力が減った東部方面軍はサバサバの守備隊をアダムの砦に集結させ

増援軍が来るまで耐える事を決断するがミル・セシル・エレノア・マリア等の各軍はハウセス

ナースに頼んで作ってもらった迂回路を使いサバサバを急襲する

公国軍が何処から来たか判らずサバサバ守備隊は混乱し降伏、補給路を絶たれたアダムの砦の

東部方面軍も士気崩壊しサイアスの命令も聞かなくなり公国軍に投降、負傷し満足に戦えない

サイアスも捕虜となる

謙信軍がランス王と再合流、エレノア軍はパラパラ砦に移動するもサバサバへ再移動

アダムの砦からサバサバに移動しセシル等の軍と合流したランス王の下に志津香とエレノア軍

戦姫軍が現れ合流

志津香が父親の仇チエネザリがゼスで指導的立場にいる事を知った為である

(アストラルは子育ての経験があり信用できるアヴァトールに預けて来た)

ゼス侵攻カスタム公国軍の概要

主将 ランス王

参謀 アールコート

志津香・ミル・エレノア軍・レイラ軍・セシル軍・リック軍・マリア軍・謙信軍・戦姫軍

ランス王、侵攻拠点となるサバサバ保持の為謙信軍・戦姫軍をイタリア制圧に派遣

イタリア制圧後ナガールモールにレイラ軍・リック軍・マリア軍で侵攻制圧

侵攻拠点でもあるサバサバには防衛の為セシル軍・エレノア軍を残した

ナガールモールの郊外で志津香とランス、チエネザリ&ナギと対峙する

志津香 vs チエネザリ、ランス vs ナギ

先に戦ったのはランスとナギだが一瞬でナギは倒され気絶する

何故ゼス四天王でもあり高位の魔法使いナギが簡単に倒されたのか理由は単純である

ナギは戦闘経験が少なくランスほどの戦士と単独で相対した事がない為距離間を見誤ったのだ

近接戦闘に成れば魔法使いより戦士の方が有利なの明白ましてや相手は大陸でも有数の剣士ランス

ナギが魔法を放つ前に肉薄していたランスに峰打ちの一閃で倒されてしまったのだ

ナギ敗北後志津香とチエネザリの戦いとなるがチエネザリの卑怯な手口に志津香苦戦する

しかしチエネザリの不用意な一言がランスに介抱されていたナギの耳に入り志津香敗北寸前の時

ナギがチエネザリを刺す

軽傷のチエネザリは二人共殺すつもりで大魔法を放つがランスが咄嗟に二人を庇い負傷すると

それを見た志津香が激怒し魔法レベル3の魔法をラガールに向け放ち志津香は自身の魔法レベルが

上がっている事に初めて気がつく

アイテムの力で魔法に耐えてたラガールだが志津香だけに神経の全てを向けていて他を見る余裕が

無く、その隙きを見流さなかったナギの投げた短剣が脳に刺さりラガールは即死した

二人を庇い負傷したランスを魔法治療する志津香とナギの異父姉妹

生きる目的を失い今後どうするか迷うナギはランスと志津香を見ている

志津香がナギに自分達と一緒に生きる目的を探そうと提案しナギは受け入れる事にしたのだが

この時後にランスの愛妾の一人になって子供も産むとはナギ本人ですら思ってもいなかった

その事も原因の一つであるが敵国の民衆達からランスは鬼畜王と呼ばれてしまう事になってしまう

ナギが公国側に付いた事で拠点のナギの塔が公国に制圧され連絡が途絶え四天王筆頭山田千鶴子は

弟子アニス沢渡を使者として塔に派遣するが塔に来たアニスはその魔法Lv3を危険視した志津香

にその単純な性格を利用され志津香達に煽てられたりして言い含められランスに抱かれる事になる

千鶴子の折檻で性的な意味での肉体が中途半端に開発されたのが災いしたのか男とは初めてなのに

肉体的相性が良かったのか快樂に溺れ公国への寝返りと愛妾になる事を承知してしまう

それはアニスにとっても幸せかも知らない騙されたと言え正妻志

津香公認の愛妾であるし

たとえ千鶴子の下に帰ってもパイヤがピカの素材候補としてア
ニスを考えてたから死亡する

未来が待っているだけだから

パイヤの塔が突如機能停止

理由はパイヤが自身を素材としてピカ縮小版の実験中に暴発事
故を起こして塔の機能が停止

パイヤは悪運強く軽い負傷で済んだ

ゼス上層部各地での敗退でガンジー王に泣き付く

ガンジー王は宣戦布告をもせず勝手に戦端を開いた上層部を叱る
が憂慮すべき事態であっても

ゼス四將軍の二人が破れたりと言えど四天王は健在であり(ナギの
離脱はまだ知られてなかった)

停戦の為にゼスの力を見せる必要があり千鶴子にナガールモー
ル奪還を命じシイル・プラインに

テープの防衛に赴くよう指示を出す

ナギの塔陥落を知らない千鶴子はナギを連れナガールモール奪還
に向かう自摸りだったのだが塔に

到着した千鶴子が見たのは防衛陣を引いてるカスタム軍で千鶴子
咄嗟に魔法を仕掛けるもナギと

志津香によって阻止されてしまう

志津香 vs 千鶴子

能力が上がってる志津香の攻撃に防戦一方となり千鶴子は不利を
悟り撤退する

テープに進行した戦姫軍は魔法部隊がおらずシイル軍の魔法攻撃
に手を焼いていた

一方シイル軍も盾となる奴隷兵と魔法使い達だけで打撃力は少な
く更には戦姫率いる長槍軍は

打撃勢力として一流、また魔法と違って曲線攻撃出る戦姫軍の弓兵
隊には手を焼いていた

そこにシイルの夫光軍將軍アレックス・ヴァルス率いる西部方面防

衛軍が到着膠着状態となる

マジルがチルデイの部隊に護衛されてナギの塔に到着

スランの正体がカスタム公国のランス王だと知り唾然とするマジルだが己の子を妊娠してる事を

聞かされたランスから感謝の言葉をまた志津香からは祝福の言葉を受けマジルは涙する

そこにナギが現れて行方不明のマジック王女が何故此処？にと尋ねたから一同騒然となるマジルは

偽名で本名はマジック・ザ・ガンジーであり元ゼスの王女だったと告白

だった？とランス・志津香・ナギがマジックへ反問する

ランスの子を妊娠した事で父と対立し何もかも捨ててゼスを出奔したとマジックは答えマジックが

ゼス王女だと知りランス達は講和するか協議するがマジック達が意外にも反対する、二人共ゼスの

現状を知ってるからである、ゼス上層部の腐敗が如何に酷いか改革に頓挫して政務を放り出した

ガンジー王の無気力さと改革出来ないことを言い訳として諸国漫遊と称して出歩く父親ガンジーの無責任さを酷評する

魔法が使える1級市民と使えない2級市民達との格差社会と使い捨てのような奴隷兵の扱いで今講和

しても市民達に何の益は無くゼスは一旦滅ぶか抵抗できない程強大な外圧によりゼスの人達の

考え方を変えさせるしか無いとマジックは言う

マジックは学生でもあり政治に無関心のふりをしたが王の一人娘でゼスを継ぐ可能性高かく

その為の勉強はしていたし恋人のアレックスへ簡単に身を任せなかったのもその為である

ナギも父ラガールの地位の乱用や行いを直に見ていたからマジックの意見に賛成する

ランスは身重のマジックの安全を計りチルデイに護衛を命じて

シヤングリラへ下がらせる

志津香とナギも下がらせる気だったのだが当の二人に魔法対策は？と尋ねられた為に見送られた

志津香と同等の魔法Lv3の魔法使いも居るにはいるのだが今は本国だし正直彼女を使うのは躊躇う

連合建国時にゼスから加入してくれて既に何度かHもしてる関係もあり、黙ってれば美人なのだが

何を考えてるか判らない底の知れない女と言うのが正直な感想でその言動も想定の外に行く

戦場に出した場合相手処か味方も巻き込む事は確実にアニスと似た者同士なのだが彼女の怖い処は

アニスと違って魔法を完全に制御してる事だ

とにかく扱い辛いのがミラクル・トーと言う魔法使い

第二部第二章ゼス崩壊の序曲2

カスタム公国ランス王、公国全域に対して奴隷売買禁止及び奴隷解放宣言を発令

奴隷解放宣言は公国全域に置いて特に公国のゼス支配地域の市民達から歓迎されるが現状で利益を

得たゼス諸侯や奴隷商人達（主にDX会等）からは反発しか出ずポルトガルの奴隷商人達も反発

反乱を起こそうとしたが直ぐに発覚してしまい治安部隊に速攻で鎮圧されていた

ナギの塔陥落を知ったガンジーは千鶴子を率いてナギの塔奪還に向かい同時にシイルの塔を経由して挟撃するよう西部方面部隊のカバツハーン将軍に命令するもカバツハーンはシイルの塔が

無防備に近い状態になるのを危惧して塔で迎撃した方が良いと思案しシイルの塔に移動する

カバツハーンの予測した通りネルソン率いるペンタゴンが魔法使い排除を目的として反旗を翻す

当初の予測と違いペンタゴンは琥珀の城を占拠するもこれを予期していたカバツハーンはマークの

西部方面別働隊に琥珀の城を制圧し反乱軍を撃退するよう指令、別働隊により琥珀の城は制圧され

ペンタゴンは撃退された

ナギの塔のリック軍がナガールモールへ撤退した代わりにセシル軍がサバサバからナギの塔へ移動

ランス王は志津香、ナギ、アールコート、ミル、リック軍を率いイージスの案内でクリスタルの森

を抜けてパリテイオランに侵攻し制圧した後、義勇兵として参加して来た元奴隷兵達に防衛を任せ

全部隊で千鶴子の塔を攻撃する

イタリアの謙信軍が市民の通報でDX会の本拠地が有る事を知りDX会本拠地急襲して壊滅させる

ランス王から市民達の害にしなければならないDX会は発見次第徹底的に潰すよう指令が出たからだ

大陸の裏世界で力を誇っていたDX会が崩壊した後本拠地に残されていた資料にはゼス・ヘルマン

公国やJAPAN各国内で役人や軍人達等の腐敗した証拠が山程発見され各国での騒動に発展する

大陸最強の攻撃力を誇るリック軍をナガールモールに下げた事で当面新たな侵攻は無いと判断した

ガンジー王の命令でナギの塔奪還に向かう為に千鶴子軍を王宮に呼び寄せた事が裏目となり塔の

守備隊だけではランス王率いる公国軍の攻撃を耐えられず千鶴子の塔は陥落した

カスタム本国から増援としてメルフェイス・ハウレーン軍が派遣されて来た、またJAPAN各国から

援軍として毛利てる軍がサバサバとナガールモール両都市に布陣して後方の安全が確保されたので

メルフェイス軍をテープ郊外の戦姫軍へ増援として向かわせハウレーン軍をナガールモールに移動

ナガールモールにいたマリア軍をナギの塔に移動させテープ郊外での激戦で消耗激しい戦姫軍を

イタリアに下げ交代に謙信軍をテープ攻略軍の主力とした
三方向からの挟撃が不可能だと悟ったガンジー王はアレックス軍

とシイル軍にテープを放棄して
シイルの塔に移動せよと命じる

しかしこの命令はガンジー王に戦術眼はあっても戦略眼が無い事を露呈してしまう

アレックス軍・シイル軍とカバツハーンの部隊が合流すれば強力な軍編成となりナギの塔の奪還に

希望が持てるもののテープでカスタム公国軍の三部隊を引き着けていけばカスタム公国軍は後方

確保の為に各拠点へ兵力を分散させなければならず、つまり主要な

前線の公国軍を突破できれば

各個撃破で奪還できる可能性が有る。公国軍としては大規模な敵軍が近くに存在しなければ各拠点

防衛の為の兵力を抑える事ができて主要な前線に兵力を集中出来るのだ

アレックス軍とシイル軍が撤退後テープは謙信軍により陥落しこのテープ放棄作戦はゼス王国国民達

特にテープ市民達が持つゼス王国への忠誠心を揺るがせる

テープ制圧後の対ゼス現状のカスタム公国軍

サバサバIIエレノア軍

イタリアII戦姫軍

テープII謙信軍・メルフェイス軍

ナガールモールIIハウレーン軍

ナギの塔IIセシル・毛利てる・レイラ・マリア・ナギ軍（指揮官不在マリアの指示で動く）の各軍

千鶴子の塔IIランス王、志津香・ナギ・アールコート・ミル・リツク軍また開放された奴隷兵達が

志願し義勇兵として参加していた

千鶴子の塔のランス王の部隊はリック軍が居るとは言え兵力は少なく対してナギの塔のセシル軍は

兵力的にもカバツハーン・アレックスとシイル各軍の総兵力より多くここでガンジー王は悩む

後方のゼス王宮は強力な結界で守られており王宮が攻められても簡単に落ちる事はない

ランス王の部隊を攻撃しランス王を倒すか捕虜にできれば情勢は一気に逆転する

セシル軍に自らの部隊も参加して全軍で攻撃撃破すれば孤立したランス王の部隊は立ち枯れる

悩んだ末に出した結論はアレックス軍にナギの塔を牽制攻撃させ残る全軍を持って千鶴子の塔の

ランス王の部隊を攻撃し撃破する事にした

勿論ガンジールの取り得る選択肢をアールコートが理解出来ない訳は無くアレックスとシイル両軍が

テープからの撤退後にシイルの塔で合流する事も計算済みでアールコートは千鶴子の塔を占拠した

直後にランス王にある作戦案を提示して了承を得ていた

アレックス軍が出撃し残り全軍が千鶴子の塔奪還の為に出撃した直後謙信軍がオールドゼスを強襲

占拠イタリアから戦力の回復した戦姫軍をオールドゼスに移動させ謙信軍がシイルの塔へ侵攻して

占拠したのである

アレックス軍が王宮へ撤退するには2塔の何れかを通過しなければならず2塔間で孤立してしまう、

しかもナギの塔の毛利てる軍が何時の間にか千鶴子の塔に移動していたそれでもナギの塔の兵力は

ガンジー軍等の主力軍総兵力より僅かに少無いだけである

王宮を護る為に建てられた四天王の塔を3個も占拠され残る一個は機能を失いガンジー王は完全に

手詰まりとなって動きが取れなくなったのである、もちろん初期の予定通り千鶴子の塔を攻撃して

ランス王を撃破するという選択もあるがシイルの塔に居る謙信軍が攻勢に出ればアレックス軍は

崩壊して兵力の多いナギの塔から千鶴子の塔への援軍が来やすい状況となつてランス王を簡単には

撃破出来ず、そして今のゼス王国軍と違いカスタム公国軍にはまだ増援する兵力の余裕がある

このままの状態が続けばゼス王国内の経済と政治は破綻する

そんな時にミ・ロードリング司教が法王の講和案を持ちゼス王宮に来訪、同時にクルックー司教も

講和案を持って千鶴子の塔に来訪したのである

法王が示した講和案の内容は以下の通り

1、ゼス王国はカスタム公国に対し公式に謝罪をする

2、ゼス王国はサバサバ・イタリア・アダムの砦を賠償金代わりにカスタム公国へ割譲する

3、ゼス王国はカスタム公国の占領時に交付された条例を占領された地域にそのまま適用する

4、ゼス王国とカスタム公国は紛争当時・講和後も両国への移籍希望者達の自由選択を認める

また移籍希望者への阻害行為等をしてしない事

5、両国はお互いの国内諸問題に対して一切の干渉しない

ムーララルー・テュラン

この講話案に対してガンジーとカバツハーンが協議する

1 に対しては宣戦布告もせず戦争を仕掛けたのであるから仕方がない

2 の案件も戦時賠償金の代わりと思えば安いかも知れない

ゼス上層部の貴族達は反対するだろうが勝手に始めた戦争責任を追求する事で沈黙するはず

3 の案件は元々ガンジー王達が改革しようと思つてた事だから良い

4 の案件はナギ・アニスや義勇兵とし志願し参加した元奴隷兵達の事だろうナギやアニスが何故

公国側に組みしたかは謎だが忠誠心の無くなった者達に意味は無いから良い

二人は思案の中でウスピラ達の事を忘れてたしマジックが公国側にいると思わなかつたのである

5 の案件は重要だ、これはカスタム公国の支配下にはならないと明言されているからだ

クルツクーとランス、初めて？ 出会う

一方クルツクー司教とランス王はであつてお互いが驚く事になつた

二人が会うのは初めてでは無くまだカスタムの代表になる前のランスが冒険へ出てた頃とある

迷宮で二人は出会っているのだが二人共その時の記憶は臆気で共通の趣味を持つ為に気の合う

仲間とだけしか認識して居なかった。

二人が出会った迷宮は「宿命の迷宮」と言う名で特定条件が揃う時のみ入り口が開くのだが問題は

宿命の迷宮の位置でまるでキナニ砂漠に在ると言う彷徨う湖と同じで迷宮其の物の位置が変わり

辿り着く事すら奇跡と言われる迷宮だった

更に宿命の迷宮は途中までは大人数で行けるのだが最深部に到達するには男女ペアでしか行けず

脱出条件も男女間で何らかの行為が必須でその行為もランダムらしく中にはランス達の時の様に

到達した男女間で性行為をしなければ永久に最深部へ到達出来無い等色々とあるらしい

またその時の記憶自体は封印され男女が再び出会いお互いが好意を持ち同じ行為をした時だけに

封印が解除されると言うとんでもない迷宮だった

この宿命の迷宮は電卓キューブの一部でもあり宿命の男女が揃った時にしか現われず、つまり

クルツクーとランスは運命の男女と言う事になるのだが当然と言うかべきか二人は性行為をして

脱出した記憶が封印されていたのでお互いが既に男女の仲間になっているとは思ってもいない

この事はムーラテストの時にトータスからクルツクーの純血裁判を求められ自身が非処女だったと

判明したクルツクーは全く見に覚えが無いので困惑する事になる
最も女神ALICEにはそんな事は意味も無くムーラテストの判

断材料にも成らなかったのだが
記憶は無くとも二人の肉体が覚えていたのか精神的な高揚感を覚え

赤くなるが少しだけ冒険の頃の
会話を二人でしてたが今はそんな場合ではないと気づいたランス

は王の顔に戻って志津香・ナギ

ラン・アールコート等と講和案を吟味する事にした

講和案1については関して当然だから了承

2の案件について

サバサバは取得した各都市の防衛に拠点都市として必要だし賠償金代わりと公国内部に示せる上に

イタリアはウエンリーナーの住処で有る聖女の迷宮への道を確保する為にも必要だアダム砦は

サバサバ・イタリアへ至る為に必要、出来るならクリスタルの森に通じるナガールモールも欲しい

所だが欲張って要求すれば講和自体成立せず法王の仲介に泥を塗ってしまう事になり得策では

無いので断念してこの案件も了承する

3の案件について

実はマジックとナギから聞いたゼスの現状に対する皮肉も込めていたから了承

4の案件について

ナギや義勇兵として協力してくれた元ゼス奴隷兵達の事かと考えてた途中でこの条件はマジック

ウスピラやサイアス・アニス達にも適用できる事を気がついた、ウスピラは捕虜になった後で

カスタム公国に参加する事を承知していたしそのウスピラの説得でサイアスも公国に帰順する事に

成ってる。

アニスは既に愛妾でランスに抱かれて以降始めからランスの女だったように成ってるし多少？の

トラブルを引き起こすが性格も可愛くスタイルも良く夜の営みも具合が良くて気に入ってる。

ランスの子供を妊娠しているマジックに関しては言わずもがなである為この案件も了承する。

5の案件について

マリスやレイリイが居れば別の考えも有るのかも知らないがランスは特に興味が無かったので

この案件も了承した

講和案に関して了承する旨をクルツクーに示したが

ゼス貴族の子女が自らの意思で公国に来た場合にゼス王国又はガンジー王はどうかするのか聞いて

貰いたいとクルツクーに質問書を書いて渡したのだ

クルツクーは一瞬その事にどの様な意味があるのか聞いたそうとしてマジルの事だと気がついた

出会った時からその言動や仕草・振る舞いでマジルの正体はゼス貴族それも高位の貴族の娘だと

クルツクーは薄々思ってたのでランス王がその事を持ち出しマジルを守ろうとしているのだと

(マジルがマジック王女本人だとはクルツクーも思いもしなかった)

ランス王の講和案了承の返事と質問書を持ってクルツクーはゼス王宮のガンジー王の下へ行き

カスタム公国ランス王が講和案を了承する旨と質問書をガンジー王に手渡す

質問書読んだガンジー王はマジック拉致の噂が誰かに仕組まれたものだとは既に判明してたので

その問いの意味が理解できずクルツクーにどう言う意味か尋ねる
クルツクーはゼス貴族の娘がランス王を愛し子供を授かり今カス

タム公国に住んで居ます、その

娘の為に安全と身分を公に保証してもらいたいと答える

安全とは引き渡し等強制的な事を求めず身分とは公国民としての権利を公に認める事だ

ガンジーには意外な事もあるものだなと思っただけならランス王は魔法が使えない男なのだ

魔法使い優先の考え方を変えさせようとしてたガンジーですらゼスに於ける魔法使い優遇の現状に

自身が無自覚ながら毒されてたゼスの成り立ちを考えればある程

度仕方の無い事だが、その事に

気が付かないのはゼスと言う国家の末期的症状なのかも知らない
マジックやナギが言う通り一度国家が減ぶ程の変革が無ければ変
わる事は無いのだろう。

そう言事もあるのかとガンジーは考えマジックの失踪が本人の意
思である事をガンジーは理解した

更にはマジックの選んだ相手が魔法を使え無いから父親の自分へ
告げる事ができなかった可能性に

気が付いたが己のその考え自体が間違ってる事に気付くのはゼス
が崩壊した後である

ガンジーは講和案遵守とカスタム公国へ参加する者達の選択権を
認める事をクルツクに明言した

講和会議はナギの塔で行われる事になったがランスとガンジーの
二人共衝撃を受ける事になる

カスタム公国側の列席者はランス王と志津香王妃、軍部を代表して
セシルとアールコート

公国側証人者としてマリアとラン

ゼス王国側の列席者はガンジー王、四天王の千鶴子、四將軍のカ
バツハーン

ゼス王国側証人者としてアレックスとその妻シイル

講和証人者として大神殿代表ミ・ロードリング司教と法王代理ク
ルツク・モフス司教の二名

証人者としてカスタム公国市民マジック・ザ・ガンジー

講和会議が始まりまず騒然としたのはゼス側である

何故なら今回の戦争の間接的理由にもなった王女失踪事件の当事
者マジックが陪席者としてしかも

カスタム公国市民として出席していたからだ

ガンジー、千鶴子、カバツハーン、アレックスは真相を正そうとマ
ジックに詰め寄りマジルの

正体がゼス王女マジックだとこの時初めて知ったクルツクも詰
め寄る

マジックは冷静にただ真実だけを語った、ランス王との出会い結ばれ妊娠した事そしてランス王と

王妃志津香に認められて祝福された事を報告しマジックがこの場に来たのはゼスから決別する為で

講和会議の席上で真実を話せば公にも自分はゼスを離れてランスの下に行く事ができるからと話す

次に騒わぎだしたのはカスタム側でまずその存在に気づいたのはマリアとランそして志津香も

直ぐに気が付き三人とも啞然として席から立ち上がってしまう、三人の不可思議な態度にランスが

三人の視線の先を見て啞然とする、そこには嘗て失った筈の半身が生きて存在していた、しかも

その半身シイルはアレックス將軍の妻としてこの場にいるのだから

当のシイルがランスや三人を見ても何の反応も示さないから問い質そうと席へ向かおうとした時に

志津香が不安な表情をしている事に気が付く彼女が生きてた事で捨てられるのかと不安になったのだ

そんな志津香を見た事で激情が治まり自分にとって一番大切な存在は誰なのか改めてランスは悟る

更にマジックからシイルがプライン家に戻る経緯や結婚した経緯やナギから結婚式で起きた現象を

聞きシイルは既に半身では無いと気がついた

後年シイルの居る国を支配した時取り返そうとすれば出来たのだがその時は既に興味を失っており

目の前に現れたシイルを嘗て肉体関係が有った女性としか認識せず何もしなかつたという

騒然と始まった講和会議だが後は怖いほど肅々と進み講和は無事成立した。

調印後、ガンジー王がランス王へ個人的に話があると言ったので二人は別室に移動する

ガンジーはランスにマジックはどの様な存在なのかと問い、ランスは大切な護るべき女だと明確に

答えた

その答えにマジックの人を見る目を信用出来なかった自分の愚かさを詫び娘を頼むと頭を下げる

こうしてゼス王女誘拐拉致の噂から始まったカスタム公国とゼス王国の戦争は終結を見る

講和後その1

戦争終結後ゼス王国内では粛清の嵐が吹き荒れるた

公国側から提供されたDX会本拠地で発見された資料が貴族腐敗の証拠として民衆の怒りを買う

粛清が行なわれたがその結果ゼスは崩壊の危機を迎える事になる

カスタム公国も同く大量の粛清者を出し押収した資産は公国運営資金5年分に上りその三分の一を

JAPAN各国へ協力金として提供、JAPAN各国にとってその金額は国家運営資金2年分ほどだった

公国で起きた粛清騒動の結果がゼス王国の二の舞に成らなかったのは既に2度の綱紀粛正が有り

公国に反逆出来る程の勢力は既に潰されていたからだ

講和後その2

ナギが率いていた部隊員達がナギと共に戦いたいと公国に移籍してナギの部隊に配属された

マジック親衛隊の過半数がマジックを慕い公国に移籍後希望通りマジックの護衛となる

元ゼス四將軍のウスピラと同じく將軍の1人サイアスが公国に移籍任官する

ウスピラとサイアスの率いていた元部隊員達が公国に移籍ウスピラ達の部隊に配属される

義勇兵としてカスタム公国に協力した多くの元奴隷兵達が公国軍に移籍する